

單位相場	買取らるる單位數	賣却總額
二〇〇 _那	二〇〇	四〇〇 _那
一〇〇〇	四〇〇	四〇〇
五〇	八〇〇	四〇〇
二五	一六〇〇	四〇〇

さて買取らるる生産物數量及び價格が價格の下落と共に増加するときに、その需要は弾力的なりと稱せられ、生産物が減少するときに、その需要は非弾力的なりと稱せらるるなり。更に他に定義を下せば次ぎの如し、曰く弾力性の單位とは如何なる變化なりとも價格の變動が買取らるる數量に精密に同様の比例なるも、しかも反對の變化によつて伴はるところの弾力性の度合これなり。

△(三)需要せらるる數量は直接に一般的財富又は購買力に伴ふて變動す。第三に、若し如何なる貨物なりとも、その限界效用及び其價格が同一状態に止ることを想像せんに社會の購買力を増加するところの事情は該貨物に對する需要を増加せしむるに至るや明

かなり。何となれば、已に説明せるが如く、財富の増加は貨幣の限界效用を低下せしめ、而して購買を決定するところの費用以上なる剩餘效用を失ふことなく、他の貨物に對して更に多くの貨幣を費消し得るが故なり。乍併こゝに注意すべきはことは購買力の變化及びその結果として起る需要の變化は必ずしも同一様なる程度にあらざることこれなり。

以上敘述せる三個の説明或は法則を次ぎの如く摘要すべし、(一)如何なる貨物なりともその貨物に對する需要は必ず比例するものにあらざれども、直接に(a)貨物の限界效用により、及び(b)社會の購買力によりて變化す、而して(二)市場より買取らるる數量は必ず比例するものにあらざるも價格と反對に變化するものなり。

家庭支出に關するエンゲルの法則 以上研究せる原理は家庭の支出及び消費に關する事實に依りて一層明確に理解し得らるべし。家庭の收入及び支出に關する精細なる説明は之を家計豫算と稱せらるるものなり。如斯き豫算の精細緻密なる研究は撒遜、大英國及び合衆國、特にマツサーチュセツ及びイリノイスの諸州に於て爲されたり。而

して獨逸の統計を基礎として調製されたる百分率の圖表は次ぎの如し。

エンヂル氏の法則 (撒遜)

支出の諸項目	家庭支出の百分率		
	一ヶ年二二五弗乃至三〇〇弗の收入ある労働者	一ヶ年四五〇弗乃至六〇〇弗の收入ある中等階級	一ヶ年七五〇弗乃至一、二〇〇弗の收入ある餘裕階級
一、食料品	六二、〇	五五、〇	五〇、〇
二、衣服	一六、〇	一八、〇	一八、〇
三、住宅	一一、〇	一一、〇	一一、〇
四、薪炭及び點燈料	五、〇	五、〇	五、〇
五、教育及び宗教其他	二、〇	三、五	五、五
六、法律の保護	一、〇	二、〇	三、〇
七、衛生上の注意	一、〇	二、〇	三、〇
八、快樂、精神上、身體上の休養	一、〇	二、五	三、五
合計	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇

合計	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇
----	-------	-------	-------

次ぎの圖表は諸國間に於ける生活状態の比較を示せるものなり、

イリノイ州、マサチューセツ州、大英國及び撒遜に於ける労働者家庭の支出比較

費用の項目	イリノイ	マサチューセツ	英吉利	撒遜	平均
食物類	四一、三八	四九、三八	五一、三六	五五、〇四	四九、二五
衣服類	二一、〇〇	一五、九五	一八、一二	一八、〇〇	一八、二七
地代家賃等	一七、〇〇	一九、七四	一三、四八	一二、〇〇	一五、六六
燃料類	五、六三	四、三〇	三、五〇	五、〇〇	四、六一
雜物雜件	一四、五七	一〇、七三	一三、五四	一〇、〇〇	一二、二一
合計	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇

以上圖表によりて表示せるが如く撒遜に於ける家計豫算を研究したる結果として有名の統計學者たるエルンスト、エンゲル博士は次ぎの如く家庭支出又は家内消費に關する一般的法則を作れり。

家族の収入増加する時に

- (1) 食料品に對する支出の割合は減少す。
- (2) 衣類に對する支出の割合は(収入の増減に由りて變動すること少く)殆んど同一に止まる。

(3) 地代、家賃、燃料及び點燈料に對する支出の割合は變化せず。

(4) 教育、衛生、休養其他に對する支出の割合は増加す。

圖表に示したる數字によれば、如何なる社會に於ても、食物に對する需要は比較的に彈力の少きものなり、何んとなれば生存上十分必要な丈けは如何なる場合にも要求せらるゝものなればなり、而して凡べての階級によりて需要せらるゝ關係的數量は其必要が満足さるゝに従ふて急速に低下するものなるや明かなり。他の一方に於て財

富の増加は慾望養成に寄與する凡べての種々なる財貨及び勤勞に對する需要を増加するものなり。

さて人の高尚なる慾望の満足は生産者としての能力を完全ならしむるに必要なが故に、吾人は以上の圖表より「貧者を苦しめ且つ之を墮落せしむるものは全く其貧窮なるにある」を理解し得るなり。彼等は非倫理的なる圈内に生活す。彼等が生るゝところの貧窮は自ら其圏外に脱出せんとするを妨ぐるの障壁たるなり。彼等をして一度此等の境遇より脱出せしめよ、若し彼等にして此等の境遇より脱出し得たらんか、彼等は自己の繁榮を永久に享受し且つ持續するの力を彼等の掌中に握るに至るべし、何となれば此の如くにして彼等は生産者として一層有效なるものとなり、而して彼等の勞力によりて増加せる生産物に對し、相當なる配當を更に巧妙に獲得し得るに至るべければなり。

エンゲル氏の法則は又無頓著なる、又は企劃的なる惡稅則によりて課稅せられたる負擔の不公平なる社會的分配を説明するにあたりても大に價值あるものなり。或租

税、假令へば麥粉「バアルル」に對し一弗の租税が賦課せらるゝとすべし、この場合に該課税は全然不平等非比例的なる負擔を貧民階級の肩上に投下するものなり。なほ、租税の現制度に關して考慮するとき、如斯き課税の常に屢行はれつゝあるは何人も疑はざるところなり。

摘要

- 一、人は消費をなすにあたり費用以上に最も大なる可能的剩餘效用を得べく、及び種々なる支出に於て限界效用を同一様に維持せんと努むるものなり。
- 二、貨物の經濟的重要は其限界效用に由りて決定せらるゝものなり。
- 三、需要は直接に貨物の限界效用及び消費者の富力に伴ふて變化し、需要せらるゝ分量は價格と逆比例に變化するものなり。
- 四、収入の増加は常に生活上の快樂及び禮節に關する支出を増加すべき機會を意味す。

復習問題

- 一、各自自身の場合に於ける消費の種々なる種類の初首效用、及び效用漸減を概略ながらも表示するところの圖表を畫け。
- 二、水或は黄金、水或は小麥、その何れが吾等人間に對し最も大なる經濟的重要を有するものなるか、同様なる方法にて他の諸貨物を比較せよ。
- 三、需要の法則又は諸法則を説明せよ、其等の圖解的説明を與へよ。
- 四、家事的支出に關するエンケルの法則を説明せよ、この法則は貧民の生活狀態に關して如何なる關係を有するか、租税につきても如何なる關係を有するか。

研究問題

- 一、如何なる學術語にて日常生活に於ける限界效用を推算しなすか。
- 二、自動車及び小麥の價格が比例的に下落したらんには、この兩者に對する需要の上

に如何なる關係的結果を生ずるに至るべきか、何故に銅の價格はその供給の大に増加せるに不拘、高價を維持しなすか、大統領の突然の死去は如何なる結果を葬儀用財貨に及ぼしなすか、何故にしかるか。

三、社會に於ける各個人は如何なる割合によりて各自の收入をエンゲルの法則に於て説明せられたる種々なる種類の財貨間に消費しなすか。

四、單一より更に多き弾力性を、單一より更に少き弾力性を、單一なる弾力性を表示するところの表を作れ。

第四章 出費及び貯蓄の經濟

茲に消費經濟に關して研究すべき二個の重要問題は残れり。その第一は如何にして人の全支出又は全消費が最大多量の満足を得るがために現在及び將來の間に分配せらるるかといふところの問題是なり。その第二は第一問の解答せられたるを假定し、如何にせば現在の消費が満足の最大合計數に結果するの順序に排列せらるるかと問ふところの問題是なり。此二問題は實際上支出の問題として研究すべきものなれども、尙ほ普通に吾人は第一問を貯蓄の問題として考へ、第二問に於て取扱はるゝところの出費問題より區別するものなり。

一、貯蓄の經濟

先づ第一に注意すべきは現在支出と將來支出との間に於ける分配割合が、既に説明せる「消費の經濟的順序の法則」と稱する一般的法則に合致するものなりと云ふと是な

り。吾人は支出の必要ある毎に常に費用以上なる剩餘效用を得んと努むるものなり、故に吾人の有する購買力の殘部を將來の購買に適用することによりて一層大なる剩餘效用を得べしと感ずれば、乃ち現在の支出をも中止するものなり。勿論多數の人に取りて現在の需要は現在及び將來の剩餘を平衡せしむるの機會なき迄に緊要にして、且つ其収入は制限せらるゝものなり。乍併貯蓄の行はるゝ場合には必ず以上説明せる比較考量によりて爲さるゝを常とす。

一、貯藏。然らば財貨は如何にして貯蓄せらるゝか。明かに自身も又他人も現在に於て其等の財貨より享樂し能はざる方法によりて貯蓄し得べし。或國の農夫は銀行を信せざるより、彼等は自家家屋の周圍に或祕密の場所を定めて其處に蓄藏するが如きはなり。此の如きは最良の方法に非ざるも、現在に於て有害若くは贅澤なる消費に支出せんよりは遙に勝れり、何となれば若し財貨——假令へば金銀——を他より損害を受くることなき方法によりて貯藏したらんには結局將來に於て、眞實にして善良なる慾望に寄與し得べければなり。

二、投資。然れども近世に於て、財産の安固は強力なる政府に依り保證せらるゝに至りたること、及び秩序的に収入を生ずる生産的使用に貯蓄を投ずる機會の容易なるに至りたることより、勤儉なる人々は貯藏に依るよりは寧ろ投資に依りて貯蓄する方法を選ぶものなり。而して如斯きの投資は(a)直接に商賣の上に又は收入を生ずる財産の上に爲さるゝものなり。然れども産業の益、複雑となり而して經營上成功を收めんと欲せば、更に益、多くの熟練を要するに至りしより、人民の大多數は直接に投資せんよりは寧ろ他人の手中に彼等の貯蓄を信托する方法即ち(b)間接なる投資を選ぶに至れり。該過程は最も多くの場合に於て更に一步を進めて運用せらるゝものなり。即ち彼等は其貯蓄を直接に生産企業に従事する人に貸附することなく現金又は信用證券の形式にて(c)彼等の貯蓄を銀行に預入れ、而して銀行は如何なる企業に其等の貯蓄を最も安全に、且つ最も有利に投下すべきかを決定するの衝に當るものなり。

○ 財富の貯藏と投資的貯蓄との相違せる點は、前者に在りては財貨が最後に生産的に又は經濟的に使用せらるべしと云ふにあるも、後者に在りては貨物が生産的に使用せ

らるゝと同時に貯蓄せらるゝものなりと云ふことなり。

貯蓄の眞性質 一般に貨幣が財貨を代表することの事實は、吾人をして貯蓄の眞性質を看過するに至らしめたるが如し。個人的見地より觀察して、貯蓄は消費の延期を意味するものなり。人あり一週間の収入より五弗を貯蓄する時、彼等はその金額に相當する財貨を他人より受取るべき権利の實行を將來に延期するものなり。彼はこの貯蓄を、金錢を貯藏すること、又は他人に貸附くることの孰れかによりてなすものなり。然れども此の如き行爲は必ずしも社會的見地より觀察して、貯蓄たるの結果を生ずるものに非ず。社會的貯蓄は全體としての社會的方面に於て將來に享樂し得る大なる力を意味するものなり。茲にAありBに貨幣を貸附け、Bは直ちに之を浪費したらんには、Aは個人的に貯蓄し得たるも、社會的貯蓄なるものはこれあることなし、何となれば此行爲に依り將來に享樂すべき財貨の更に多からざるべければなり。然れども若しBにして直に浪費する代りに之を機械製作に使用したらんには、茲に始めて社會的貯蓄は生ず、何となれば機械の使用により將來に於て更に多くの財貨が生産せらるべ

ければなり。近世的社會は主として財貨生産上の便宜を改良することによりて貯蓄す、而して合衆國人民が將來の使用の爲めに貯蓄する食料、衣服其他の數量は比較的尠少なり。

濫費に關する謬想 吾人は金錢を無制限に濫費する人を以て社會の恩惠者なるが如く考へ、同時に贅澤に使用せざる人のかへりて非難せらるゝを聞くに屢々なり。然れどもこの事實よりして前者は刻下に貨物及び勤勞を使用しつゝあるものにして、後者は投資に依りて社會の生産的設備を改良しつゝあるものなることは明瞭なり。一は其家庭、厩舎若くは遊船等に於て働くべく多くの人々を使用するものなり、他は製造所に働くべく多くの人々を使用するものなり、即ち後者は社會的に貯蓄しつゝあるものなり。而してこの理由は更に擴充し得べし。しかも吾人は現實の生活につきて考慮するの賢明にして且妥當なる時に於てすら、ある將來に於ける生活のために準備すべく、吾人の時間と努力とを費消するの過誤に陥ることあるものなり。然れども恐らく個人も又國民も次ぎの如き警告を必要とせざるべきか。

金錢の費消は商賣を盛ならしむるものなりといふは虚妄なりと認むべきものなり。154

二、出費の經濟

本章の始めに擧げたる二個問題の中、已にその第一を研究せるを以て茲にはその第二問題につき説明を試むべし——即ち最大幸福なる結果を得るが爲めに現在の消費を如何なる順序に排列し、處理すべきかてふ問題これなり。

まづ第一に出費經濟につきて二個の主要なるものあり、吾人はその一を正當なる選擇の經濟と稱し、他を正當なる使用の經濟と稱す。而して正當なる選擇の經濟は貨物が最も有益に適用せらるゝところの其等貨物の現在使用に關する正確なる智識を必要となし、同時に正當なる使用の經濟は其等貨物を有利に適用し得る最も有效なる方法に關する智識を必要となすものなり。

(A) 正當なる選擇の經濟 如何に經濟が正當なる選擇によりて得らるべきかを考慮するにあたり、吾人は倫理學及び經濟學間に於ける境界地を形成するところの思想の分

野に入るものなり。まづ第一に、吾人は全體としての社會的見地より經濟は、社會的努力の結果が最高級なる實行的程度に於て、社會の各個人間に分配せられざるべからざることを要求するものなることを恐らく確信を以て斷言し得べし。多數者が勞苦し、而して最少數者が勞苦又は憂慮なく奢侈贅澤に享樂し得ることのために單なる合宜的生活だに得ずして過ぎ行くときに、社會的經濟の根本的法則が破壊せらるゝことは明かなり。こゝには如何なる點にまで如斯き状態が防止せられ得るか議論に入ることなく、たゞ吾人は如斯き分配状態は民主的社會に對して經濟の理想を表示するものにあらずとの主張に同意を表す。

奢侈の浪費 奢侈向の出費又は奢侈的消費は經濟的消費にあらず、何となれば此種の消費にありては其資源を最も有利なる用途に使用しなざればなり。さて奢侈の問題は論議するに頗る困難なる問題の一なり、何となれば奢侈そのものゝ定義は容易に與へらるゝものにあらざるが故なり。二世紀前に在りて獨り富豪或は權力家によりてのみ使用せられたりし多數の事物は、今日貧窮者にも容易に求め得らるゝに至れ

り。かゝる貨物を今日誰か奢侈品と考ふるものあらんや、然かも若し往時にありて其等事物の所有が貧者の利用によりて得られ、而して其所有者が其所有に對する報償として社會的勤勞を與へざりしならば、吾人は其等を目して奢侈品なりしことを主張せざるべからず。目に一丁字を解せざる人に向ひて、圖書館は一の奢侈物なるも、科學者にとりてはその完全にして有效なるほど必要なものなり。従つて以上の説明によるも奢侈の單純にして明瞭なる定義に到達するの困難なるを知るべし、而して吾人が日常如斯きの支出を判斷する普通の原理を立つることも亦同じく困難なるものなり。尙同時に支出中に社會經濟の原理を含蓄し、且つ道義的訓戒を暗示するところの定義を下すは不可能にあらざるなり。曰く奢侈とは消費者が報償として社會に盡くすところの勤勞に對し比例を失したるところの、しかも消費者にとりて必ずしも直接に有害なるものにあらざるところの貨物及び勤勞の消費によりて生ずるものなり。

然れども人あり或は問はん人は自己の所有物を、その欲するまゝに處理するの權利を有せざるかと。而して若し法律に準據して單に判斷したらんには、然り充分にその權

利を有すと答ふべきなり。何れの法廷にありてもエベルの保護者にカインを指名しなさざりき。乍併法律規則は權利及び義務に關する觀念が種族間に發達したる後に徐々に且つ停滯的に發達するものなり。法律は屢、財産の權利及び其使用を極端にまで許容したり、これ大體に於て人は其生産物を無拘束に處理し得るの權利を與へらるるときに更に懸命に勞働し更に多大の生産を爲し、而してこれに依りて更に大に幸福なるを得べしと信せられたるが故なり。乍併今や世人は次第々々に社會的に傾きつゝあるなり。かくて富者及び能力者は社會の人々につきて何等與ふるとなく其所有物を浪費し得るとなすよりも、寧ろ彼等に預けられたるところの信任として彼等の富及び才能を考慮するに至れり。此責任の觀念と保管者たるの感情とが充分に發達するに至りたる時に法律は人類思想に於ける變化を承認するため、而して若し人々にして進歩せる責任觀念を有せざらんか其等道義を虚飾すべき非社會的なるものを強制する爲めに變更せらるゝものなり。然れども例外の場合を除きて何等法律を變更するの必要なかるべし、何となれば輿論の力は奢侈濫用の行はるゝを阻止するに充分なるべければなり。

乍併茲に注意すべきことあり。即ち極端に過ぎたる吝嗇は、浪費濫用よりもその弊害のただ僅に少しといふまでにして弊害たるや一なり。而してこゝに吾人の忘るべからざることは人間慾望の數並びに種類に於ける合理的増進は人類社會の進歩に必要なりと云ふこと是れなり。

有害なる消費の浪費 奢侈的消費を論ずるときにあたり吾人は奢侈的消費が必ずしも消費者に直接の害毒を與ふるものにあらざるを説きたり、しかも如斯き害毒の生ずるときに之を贅澤なる消費と言はんよりは寧ろ有害なる消費として論ずるを常とす。言ふまでもなく有害なる消費は倫理教師によりて非難せらるゝ以上に經濟學者よりも排斥せらるゝものなり、何となれば有害消費は個人的見地より言ふも亦社會的見地より論ずるも非常に無益の浪費たればなり。國民が其勞力と資本を消費上、幸福よりは更に多く不幸を招致し而して將來に於ける國民の氣力及び聰明の根源を微弱ならしむるところの貨物の生産に使用する時に、經濟的消費はその正しき軌道より脱離すべく従つて激烈なる非難を惹起するに至らん。若し社會にして此の如き有害なる消費

を廢棄したらんには、麵麩は廉價なるを得べく、高尚なる慾望は満足を見出すべく、而して人は單なる肉感的満足の動物的下劣の水準より遠ざかるを得べし。

選擇の經濟に關する二三法則 眞實なる大満足が比較的少なる支出によりて得らるゝところの方法に於て吾人は吾等慾望の増長を支配し得るものなり。かくして吾人は(1)其性質に於て排他的なるよりは寧ろ包括的なる享樂又は消費を養成し、且つ獎勵せざるべからず。若し社會が個人的に美術品を所有することよりは、寧ろ其等佳麗なる繪畫若くは彫刻を公衆と共に觀賞することによりて満足を得らるゝ様美術的嗜好心を養成したらんには、社會は合同購買に依り最も經濟的に更に多くの満足を享悦せしむるを得べし。又(2)吾人は調和統一ある消費を養成し、獎勵せざるべからず。茲に熟知の一例を擧げんか、麵麩及び牛酪を共用することは、二個のものを分離して消費せんよりは大なる享悦を與ふるものなり。然れども消費の調和は以上の如き單純なる場合にのみ限らるゝものに非ず。諸貨物の「集團」が何時にても集合的に消費せらるゝときに其等貨物を個々に離して消費するよりも更に大なる満足の得らるゝものなるが故に、

「**集團**」の消費は調和せる消費にして、最も經濟的なるものなり。終りに③吾人は消費上多種多様な習慣を養成し、奨励せざる可からず。消費せらるゝ財貨の異種多様、即ち種類にして種々ならば其等財貨の限界効用は更に高かるべし、而して夫故に其等の消費より享受する満足は更に鋭敏なるものなり。更に又、人の嗜好範圍にして宏汎ならんか、他邦に旅行する場合の如き、多種多様な状態の下に満足を享受し得べきは更に確實なることなり。一例を擧げんに、食物に關する嗜好と願望とが狭少なる範圍に限らるゝ家族は、食料品の購買を其範圍に限られ市價の變動に支配せらるゝものなり、之に反して多種多様な嗜好に養はれたる家族は、食料品の一種に對して多くの支出を要するに至れる時、さしたる享悦の損失なくして該食料品を棄却し得るなり。若し亞米利加人が小麥粉にて造られたる麵麩以外に、更に他の種類の麵麩に對する嗜好を養成したりとせば彼等は現在に於て享悦するよりも更に廉價に、小麥製麵麩より享取すると同じき満足を他種類の麵麩より享受することを得べし。

(B) **正當なる使用の經濟**、上來已に吾人は正當なる貨物の選擇上、又は有益なる使用

のために選擇せるものゝ觀賞上の失敗より起れる經濟的缺陷に關して説明を試みたり。然かも其等貨物の選擇が正當に適用せらるゝの時にありてすら貨物の使用上一般に或種の浪費は起るものなり。かくて假令特徴ある害毒は勿論僅少なりと雖も、使用の場合に於ける貨物の浪費は恐らく選擇の場合に於けるよりも、更に多かるべし。

家政は經濟上重要なものなり 家政上主婦(妻又は母)の勢力は大なるものなり。

恐らく普通の家族にありて収入の四分の三より少からざる金額は、支出經濟のために家事萬端の當事者たる主婦によりて使用せらるゝものなり。此考慮すべき重要な事實も往々にして看過せられたり。特に米國に於て家族の食事準備に關する浪費的方法に對し非難の聲を生ずるに至れり。而して如斯き無益の消費は次ぎの事情より生じ來るものなり。

- (一) 比較的少量の滋養分を含有する食料品を選擇すること、
- (二) 消費者の特殊の必要によく適合せざる食料品を選擇すること、
- (三) 購買せられたる而して滋養分を供給するところの材料を充分に利用せざる過失、

- (四) 食物料理法の宜しからざることを、
- (五) 料理に用らるゝ燃料を充分に利用せざる過失、

此等と同様な浪費は衣服につきては亦繰返へざるものなり。即ち注意深き研究者の計算に依れば、此等の浪費によりて全収入の十分の一以上は無益に支出せらるゝものなり。若し此計算にして正當ならんには、吾人は此等浪費の制止が平均家族をして一日一時間若くは夫れ以上労働時間を短縮せしむるも尙ほ従前と同一なる享悦を爲さしめ得べく、或は要求せらるゝ労働の量を増加することなくして享樂の和を更に一割以上多く増加せしめ得べしと結論し得るなり。

摘要

- 一、消費上の經濟は現在消費と將來消費との間に支出の經濟的權衡を要求す、而して現在支出の經濟的順序の一は「貯蓄」の經濟にして他は「出費」の經濟なり。
- 二、單に貯藏にあらざるも、貯蓄は實際將來の爲めに費消せらるゝものなり。夫故に

現在と將來との良權衡は吝嗇と濫費との平衡によりて得らるゝものなり。奢侈濫費は公共の利益にあらず。

- 三、現在消費に於ける經濟は、正當なる選擇及び選擇せられたるものゝ正當なる使用を要求す。
- 四、奢侈及び有害なる消費は共に正當なる選擇の法則を破壊し、且つ非經濟的なり。包括的、調和的及び多種多様な消費は最も經濟的なり。
- 五、正當なる使用の經濟は大に家政當事者の運用如何によるものなり。

復習問題

- 一、金銀を費消することが商賣を盛ならしむるものなりといふの謬論なるを論ぜよ、貯蓄するところの人は何故に、及び如何に費消しなすか、如何なる機關によりて通常將來に對しての費消は近代的社會に於て行はるゝか。
- 二、如何なる二個の一般的原则が現在の支出を節約するために遵奉せられざるべから

公共物の取り入道徳者ヨ!
コレが學研=志者、態度カ。

ざるか。

三、奢侈とは如何なるものなりや、その經濟的結果は如何、如何に奢侈は有害なる消費と異りなすか。

四、例證を擧げて消費に於ける多種多様の經濟を説明せよ、又調和的消費の經濟及び包括的消費の經濟を説明せよ。

研究問題

一、何故に公立圖書館は經濟的なりや。

二、貯蓄は消費なりとの説明によつて如何なることの意味せらるゝか、貯蓄は將來財貨に對しての費消なりとの説明によりて如何なることの意味せらるゝか。

三、若し人々が單なる必需品として考へらるゝところのものに彼等の收入のみを費消したらんには如何なる結果を生ずるに至るべきか。

四、貧民は貯蓄銀行に金錢を預入るゝこと、又は通常投資と稱せらるゝもの以外に於

欠

欠

ことなりや、一般的生産過剰につきて普通誤解せらるゝものは如何なるものなりや。
六、如何に多數の人々が前時代に於けるよりも個人的勤勞を爲すために生産に従事し
つゝあるかを詳細に説明せよ。

研究問題

- 一、人口の増加と共に個人に對して開かれたる職業の種類が増加する事實より如何なる經濟(節約)が起りなすか。
- 二、從軍兵士が生産者なりと論せらるゝは如何なる意義よりなさるゝものなりや、竊盜は生産の一過程なりや。
- 三、一萬弗の値打ある田園は五千弗の擔保借に使用せらるゝなり、該田園及び擔保の價値は合せて一萬五千弗なりや、又は一萬弗なりや、その理由を説明せよ、この場合に於て如何様に租税は該財富に賦課せられざるべからざるか。
- 四、貨幣價値を有せざるところの如何なる效用が家庭に於て生産せられ又は消費せら

公共物ヲ切キトリレハ
社会民衆ノ敵ナリ矣

るか。

五、獨逸は鐵道を國有とせり、如何にこの事實が北米合衆國人民の財富の國勢調査見積と比較して獨逸人民の財富の國勢調査見積上に影響しなせしか。

第二章 生産の三要件

×三要件 今日運営せらるゝ生産に寄與するものに三要件あり。夫故に此等は生産の三要件と稱せらる。而して此等三要件中二要件は本來的又は原始的要件と稱せらる、何となれば該二要件は生産の初期時代の形式に於て存在するものなると共に、又第三要件は該二要件より生じ來るものなるが故なり。二要件とは勞力及び天然或は土地是れなり。吾人は此うち一、即ち土地を受動的と稱し、他、即ち勞力を能動的と稱すべし。換言すれば勞力は元來財富を生ずるところの天然物の上に働くものなり。天然の上に働ける勞力の活動より、勞力の結果を直ちに享樂せずして之を後日に延引することに依りて、資本は生じ來る、夫故に第二位的若くは派生的要件と稱せらる。即ち資本は天然及び勞力に對し第二位的にして、天然及び勞力より派生せるものなり。

一、天然又は土地

用語の意義 「天然」なる用語中に、吾人は天然によりて直接に供給せらるゝ凡べての物質的材料と共に、生産に使用せらるゝ凡べての天然力、即ち風力、水力、重力、凝集力等をも包括せしむるものなり。經濟學上普通に「天然」てふ語の代りに「土地」なる語を使用す、何んとなれば天然の幾多恩恵中に在りて經濟學上、吾人は主として土地を取扱ふものなればなり。然れども如斯く使用せらるゝ土地てふ語は、吾人の説明せるが如く廣義の意義を有するものなることを記憶せざる可からず。或る經濟學者は此混雜を避けんがため廣き意味を示さんとする場合には、「天然的要件」なる語を用ゐるものなり。

如何に土地は生産上働きたるか 分解的研究により吾人は土地の生産に寄與する勤勞が單一簡易なるものにあらずして、通常異なる四個勤勞の一又は一以上を寄與するものなるを學びたり。(一)その第一は立脚地又は場所を提供するとなり。場所は生産過程に執掌するにあたり、その上に居住し而して動作する處の或ものを吾人に與ふるものなり。單なる場處は都市に於ける不動産の場處に目撃せらるゝが如く屢、大なる價

値の泉源たるものなり。かくて絶えず増加する人口の大部分が都市にのみ住居するときに土地によりて寄與せらるゝこの第一勤勞は益々重要な度を増加するものなり。(二)その第二は土地自身に包有する處の天然力の利用によりて生産に寄與する者なり。(三)その第三は土地が植物生活に必要な諸要素を含有す、夫故に農耕上に勤勞を寄與す。吾人は土地の此等固有性を指して豊饒力と呼ぶものなり。(四)最後に土地はその表面下に石炭、瓦斯、重油、鐵、及び金銀の如き天然の生産物を包有す。人間は此等天然的寶庫を創造することも、亦此等の形成を支配することも不可能なり。従つて或る國民は此等天然物を以て個人の所有財産となすを不條理と考へ、而して夫故に之を共通的繼承財産として取扱ひ、若し個人にして之を利用する時には地代又は借地税を要求したり。如斯きは今日歐洲大陸を通じて一般の狀況なり、然れども英吉利法は私有權を認むること廣大なる傾向ありて、反對に土地の表面を所有する人は下方地球の中心に及び上方蒼空に至るまで尙ほ所有權を有すてふ思想を養成したり。

報酬漸減の法則 經濟學上尤も根本的にして且つ重要な諸法則の一は土地或は他

の天然的要件の上に勞力を應用し、及び資本を放下するより生ずるの結果を敘述するところのもの是なり。該法則は報酬漸減の法則と稱せられ、特に意を用ひて研究するの價値あり。こゝに吾人は農業に應用したる該法則の研究より始むべし。

各農夫は其耕作用の土地に放下せる勞力及び資本の支出より有利に出來得る丈け多くの收穫を得んと欲するものなり。尙ほこの説明には或る限界のあるありて報酬を制限するものなること、即ち此限界を超えて更に放下したる出費は比較的に不利益なるものなることをも含有す。何が故に該限界は存するか、及び其限界は何に依りて決定せらるゝかは茲に研究せんとする問題なり。例令へば馬鈴薯の耕作に使用せらるゝ「エーカー」の土地ありと假定せよ、扱その土地たるや急速に且つ粗雑に耕作せらるゝとも、又何等肥料の使用せられずとするも、又は荒廢を防ぐために蔓草の芟除に注意の加へられずとするも、幾分の收穫は得らるべし。尙又農夫は耕作上に更に資本と勞力とを加へたらんには更に多くの收穫を得べく、而して農産物の價格が相當に高からんには、その増加せる收穫は増加せる出費を償ふて尙ほ餘りあるを知るなり。かくて若し

耕作上起り得べき状態を明了にせんが爲に之に對する農夫の意見を求むることあらんか、吾人はその農夫より左表の如き見積書を得ることあるべし。

投資額	收穫より得べき全報酬	投資一弗に對する平均報酬
(1) 五弗	四〇「ブッセル」	八「ブッセル」
(2) 一〇弗	一〇〇「ブッセル」	一〇「ブッセル」
(3) 一五弗	一六五「ブッセル」	一一「ブッセル」
(4) 二〇弗	二〇〇「ブッセル」	一〇「ブッセル」
(5) 二五弗	二二五「ブッセル」	九「ブッセル」
(6) 三〇弗	二四〇「ブッセル」	八「ブッセル」
(7) 三五弗	二四五「ブッセル」	七「ブッセル」

まづ暫時、此圖表が如何なるものなるかにつき注意して考慮すべし。第一上段に於ける投資は「エーカー」を耕作するために放下せられたる勞力及び資本を弗貨に評價して表示したるものなり。夫故に若しある特殊點に於て農夫が投資と同様なる貨幣の

數量にて賣却し得べき生産物を得たらんには、彼はその勞作及び期待に對して充分に報償せらるゝものなり。更に又説明を簡單ならしむるために、該投資はその生産物を賣却するの日に於て「エーカー」に放下せられたる勞力、及び資本に加へられたる利子に對する定限額を抱括するものとして考へらるゝなり。然れども該上段に於ける數字は土地の使用に對する如何なる支拂をも抱括せざるなり、何んとなれば吾人はこゝに耕作に要する費用のみを考慮しつゝあればなり、更に又後に説明せらるゝが如く、吾人の現に試みつゝある研究は如何に、而して何故に或ものが土地の使用に對して仕拂はれ得るか、而して又若干か或る一定状態の下に仕拂はれ得るかを吾人に表示するものなり。第三下段に於ける數字は第一上段に於ける數字によりて、第二中段に於ける相對數字をて除して得たるの商數なり。圖表につき以上の説明により吾人は如何に報酬漸減の法則が解説せらるゝかを知らんと欲す。

圖表中の數字を検するに、五弗の出費を二倍して十弗に増加するとき、生産物の數量が二倍以上に増加し、而して之と同様に生産物の増加は、その追従する次ぎの場合に

於て出費の増加よりも其割合の更に多きを知るべし。然れども出費が十五弗より二十弗に増加したる時に、その生産物は、百六十五「ブッセル」より二百「ブッセル」に増加せるに過ぎず、即ち出費の増加は三分の一に當るに拘らず、生産物の増加は僅かに五分の一強に過ぎざること注意到し、而して又同様なる方法にて次ぎに出費を四分の一の割合にて増加する時に、生産物増加の割合は僅々八分の一に過ぎざること注意すべし（以下準之）。換言すれば或る點まで、出費の増加——こゝには投資十五弗によつて表しせらる——は一樣なる割合又は夫れ以上の割合にて、之に對する報酬を増加するものなり、これと同時に或る程度に達したるの後、更に出費を増加するときは、之に相當する報酬の増加を比例的なるよりも少からしむるものなり。若し此事實にして存在せざらんか、土地耕作上資本の放下及び勞力の使用は無制限に行はるべく、農夫は「エーカー」の土地耕作に資本及び勞力を有利に使用し得るものなり。然かも、到る處、農夫が如き利益ある出費の數量に關して嚴酷に制限せらるゝの事實あるは、報酬漸減の限界點が天然的要件に勞力及び資本の適用せらるゝ時に必然に存立するを明

白に立證する者なり。圖表に於て生産の最少平均費用は十五弗の投資に於て、又はその附近に於て見るべし、而して最少費用にて生産せらるゝ、「ブッセル」は數字の表示するかぎり同一點にありとみるべし。乍併若し繼續的假定的投資の行はるゝ間隔が極めて短時間ならんには、最少平均費用の點と、最後の又は限界的「ブッセル」に對する最少費用の點とは到底一致するとなかるべし。何んとなれば最少費用の「ブッセル」が到達せらるゝときに、假令以前のものよりは更に多くの費用を要すと雖も、尙ほそれにも不拘次ぎの繼續的「ブッセル」はその點に到達するまでに生産せられたる凡べての平均費用よりも更に少き費用を要するものなることの發見せらるればなり、而して夫故にさきに費やせしところのものを包括してその平均費用を低減すべし。最少平均費用の點——最少限界的費用の點を較々越えたる——は實際に報酬漸減の點なり、然れども、圖表に於てこの相違は明白に表示せられざるなり、而して如斯き相違を説明することは實際上さまで重要なるものにあらず。夫故に今後或る實際的結果を生ずるにあらざるかぎり寧ろ之を不問に附すべし。

Influence of Price

さて更に考思するに農夫は必ずしもその生産物が關係的に減少し始めたるの耕作地にその出費の繼續を中止するものにあらざるや明かなり。有利の出費の制限——或は耕作の内容的限界——はその生産物の豫期せらるゝ價格如何に關係するものなり。かくして「ブッセル」が十仙の價格なりとすれば農夫は前掲圖解に於ける第二、第三及び第四の場合を除きたる凡べての場合に於て必ず損失する者なり、而して彼が剩餘、即ち利益を見るは唯第三の場合に於てのみなり。又一「ブッセル」が九仙の價格ありとすれば彼は全然耕作に努むることなかるべし。他の一方に於て「ブッセル」の價格が壹弗ならんには、彼は「エーカー」に對し三十五弗の費用を惜むことなかるべし、何んとなれば此場合最後に増加せる五弗の出費は排作に使用せられたる限界的勞力、材料其他に對して充分に報償し得るところの五「ブッセル」の増收を與ふるものなればなり。夫故に吾人は出費の増加するに伴ふて報酬の割合が漸減するに二個の場合あることを云ひ得べし、即ち一は生産物の數量を立脚點として觀察するの報酬漸減にして、他は生産物の價格を立脚點として觀察するの報酬漸減なり。價格の上より見たる第二の報

酬漸減は勿論農夫にとりて決定的のものなり、然れども之とて自ら生産物の數量によりて計算せられたる報酬漸減に基礎を有するものなり。

さてこゝに殊更に注意すべき一事あり。そは該法則の性質に關するの不完全なる理解より、往々人口の増加につれて土地より生活必須物を得るの困難が益甚しきを加ふるものなりとの結論を生ずるに至らしめたるこれなり。然れども此結論は社會の歴史上洽ねく知られたる事實と相違するのみならず、該法則が正當に説明せらるゝと、きに、法則そのものとも相違するものなり。實に如斯きの結論は、若し報酬漸減の限界點にして年を重ね、代を更ふるとも到處に於て同一點に止まるものならんか、始めて確實なるを得べし。然れども如斯きは實際に於て極めて遠き最後の假想たるもの也。農耕の技術は改良せる手段及び方法の發明及び發見の結果として絶えず改新せられつつあるなり、而して此等の改良及び發明は、大なる出費なくして尙ほ容易に大なる收穫を得せしむるに至れり、換言すれば此種の諸改良は報酬漸減の限界點を前進せしむるものなり。尙ほ報酬漸減の法則は依然として眞理なり。従つて限界點は常に存在し

而してこの限界點を超えて更に「エーカー」の土地に加へられたる資本及び勞力の増加は比例的割合よりも少き報酬を與ふるものなり、然れども現時にありて此限界點は往時に於けるが如く直ちに達せらるゝものにあらず。

以上論述し來りし報酬漸減の法則につきてこゝに正式的説明を與ふべし。一定の時、に於て天、然、的、要、件、の、單、位、に、對、し、勞、力、及、び、資、本、を、放、下、す、る、に、あ、た、り、て、一、の、限、界、點、あ、り、此、限、界、點、を、超、え、て、更、に、加、へ、ら、るゝ、資、本、及、び、勞、力、の、放、下、は、比、例、的、割、合、よ、り、も、少、き、報、酬、を、與、ふ、る、ものなり。

以上の解説に於て便宜上農業に放下せられたる勞力及び資本の場合を採れり。然れども該法則は土地及び鑛業、製造業及び商業の場合に於ける他の天、然、的、要、件、に、對、し、勞、力、及、び、資、本、の、放、下、せ、ら、るゝ、時、に、あ、り、て、も、同、様、に、眞、實、な、る、ものなり。唯その相違せる點は此等産業にありて、報酬漸減の限界點が達せらるゝ以前に、農業の場合に於けるよりも勞力及び資本の更に大なる數量が土地の一定單位——即ち「エーカー」——に放下せらるゝことなり。

報酬漸減の法則に關する以上の説明は經濟學上分解的説明として尤も多く用ゐらるる者の一なり、而して該法則説明の此形式は、如斯き法則の參照として用ゐらるる時に、他に言明的に説明せられざる限り、常にこの形式の如くに解釋せらるる者なり。然れども此處に採用せられたる以外の他の觀察點よりも報酬漸減の法則を説明し得べし。一例をあぐれば、單位として「エーカー」の土地を舉げ、而してこの土地に放下せらるる勞力及び資本の數量を豫想する代りに、吾人は農夫自身を單位となし、この單位たる農夫にその使用に任かすべく繼續的に土地、勞力、及び資本を加ふる場合を想像し得ざるにあらず。この場合に於て吾人は又始めに報酬の増加するを見、而して次に漸減するを見るものなり、而して同様なる仕方にて吾人は資本の一定量又は單位と共に地及び勞力の増加したる定量とを結合したるところの結果を考慮し得るなり。

二、勞力

定義 生産の意義的又は原始的要件の第二は勞力なり。勞力は效用を創造するの目的を以て企てられたる人の心力及び體力の勞役なり。

普通の分類は身體勞力と精神勞力とを區別す。此區別をなすに就て記憶すべきことは純粹なる精神勞力と、純粹なる身體勞力との間に常に兩者の抱合したるものゝあること是なり。哲學者又は思想家が其思索せる思想の結果を社會に發表せんと欲するや、手と舌とを以て勞働せざる可からず、而して他の一方に於て溝渠鑿掘者と雖も何等智識の作用なくしては其業務に従事すること能はざるなり。

かくして吾人は勞力、それ自身が目的に非ずして、却つて目的、即ち慾望の満足、を充實するの手段たることを忘る可からず。さてこの思想を堅く心に留めたらんには人間慾望の満足を増加するものに非ざる場合に、勞力の増加が社會的に願はしきものに非ざるを了解するに難からざるべし。窓硝子を破壊するは勞力に對して機會を與ふるものなり、然れども其結果として人間の満足を増加しなざるなり。他の一方に於て勞力を節約すべき工夫は或は個人的勞働者を妨ぐることありとするも、全體として社會に利益あるものなり、夫故に此等の工夫は同様なる努力によりて更に大なる満足を得せ

しむるものなり。

國民の勞働力 勞力と關聯して最も重要な問題は國民勞力の總數量を支配すべき事情に關するもの是なり、而して國家勞力の總數量とは國民の勞働力と稱せらるゝところのものなり。さて何ものがこの勞働力を決定するものなるか、明かにこれ單なる數のみに非ず、何んとなれば或る一國に於ける百人の勞働者は他の國に於ける同數の勞働者よりは遙かに多量を生産し得るの勞力を供給するものなるが故なり。該問題の分析的研究は國民の勞働力を決定するに二個の要素あるを示せり、二個の要素とは(一)能率及び(二)數量これなり。

(一)勞力の能率 (イ)第一に勞力の能率は勞働者自身の能率によるもの、即ち彼等の精神上、身體上、道德上の性質に依る者なり。節制、誠實、熟練、敏活、神速なる識別、包括的理解、——總て是等の優良なる性質は勞働者の能率に寄與する者にして、頓て勞力の能率に寄與する者なり。而して此等性質の構成に關して、勞働者が養成せらるゝのみならず、又彼等が勞働に従事する處の物質的及び社會的環境は最も重要な關係を有す。

(ロ)勞力の能率に必要な條件たる第二の勢力は勞力が組織せられ、且つ指揮せらるゝ方法の如何によるものなり。このことに關しては次章に於て別に論せんと欲するも尙、此處には勞力が注意して組織せられ、且つ指揮せらるゝときに、各勞働者が其最も適合せる勞作を繼續的に爲し得るものなるが故に、如斯き方法によりて用ゐらるゝ勞力は無制限に益、有效となるものなるに注意するの必要あり。

(二)數量 國民の勞働力を決定する第二の要件は、其總數又は數量、是れなり。此要素は(イ)部分的に勞働者の勞働に従ふ時間の合計數に依るものなり、即ちこの合計數は勞働する日日の勞働時間の長さとして一年間に於ける日曜日、祭日等の勞働日數等によりて異なるものなり。一日十時間の勞働は一日八時間の勞働よりも勞力の大なる數量を意味す而して、夫故に其能率が長時間の勞働によりて割合上阻止せられざる限り、勞働力は更に大なるものなり。國民の勞働力は、他の事情に變化なき限り、(ロ)勞働者の可能的増加を意味するところの人口増進と共に疑ひもなく増加するものなり。

「マルサス」の人口論 さて人口の増加につきて生活資料を獲得し得べき方法により

て表示せらるゝ制限を除きて絶對に制限なるものなし。今日まで記録せられたる歴史を通じて吾人は再三再四、或國に於ける人口の増加を見ると共に、他の一國に於ける人口が饑餓の點にまで、即ち生活資料が出生する處の總人口に對して供給の不充分なるに至りしまで、増加しつゝあるを見るなり。而してこの事實より人口の過剰が過去に於て起りたりしが如く、將來に於ても常に繰回さるゝならんとの恐怖は起れり。如斯き恐怖によりて強く刺激せらるゝところの人々は屢々「マルサス」主義と稱せらるゝ原理を彼等の唇頭に上すに至れり、而してこの原理は十八世紀の終り頃より十九世紀の三分の第一期頃にかけて生存し、而して著述せしところの英國經濟學者トーマス・ロバート・マルサスの名に負ふものなり。該原理に依れば、人口は幾何學的比列によりて（即ち二、四、八、十六、等の如く倍數によりて）増加するの傾向あり、同時に食物の場合に吾人の希望し能ふところのものは數學的比列によりて（即ち二、四、六、八、十等の如く附加することによりて）増加することとなり。而してその結果として若し食物以外なる他の抑制が人口の増加に加へらるゝことなからんか、人間は直ちに饑餓の限界點に達するに到るべし。

人口増加に加へらるゝ積極的及阻止的抑制

さて「マルサス」の原理より觀察して次

ぎの如き人口抑制の存立が認容せらるゝものなり、即ち其等抑制に二種類あり、即ち積極的抑制及び阻止的抑制是なり。積極的抑制は生存者の死によりて作用するところの抑制なり、即ち流行病、悪疫、放縱、殺兒、食人及び戰爭の如き事情によりて死亡率を増加するところの抑制なり。此等の積極的抑制は自然に避くべからざるものとして起り來る排他的悲運たるべし、又此等の抑制は悲運に誘致するところの不道德より間接に生ずることあるものなり。阻止的（又は消極的）抑制は出産率を低下することによりて作用するものなり。此等の抑制は親として不能力者たるの結果を生ずるところの惡徳によりてか、又は「マルサス」が之を「思慮的節制」、即ち結婚を延期し及び回避し、又は家族の生成を回避することによりて行はるゝものなり。注意深き人は妻女を支持し兒童を養育し得るに非ざれば其結婚を延期す。人口が稠密となるや、如斯の人は家族を養ふ責任の重、且つ大なるを知りて結婚を延期し又は之を回避す。かくて結

婚の平均年齢の上進と共に、小兒分娩の数は同一比例に於けるよりは更に多く減少するものなり。結婚及び人口を抑制する社會的必要より生じたるころの無數の風習は世界到處に存在す、例へば或る農村社會に在りては一茅屋が前住居者の死亡によりて空虚となりたるときにのみ結婚の行はれたるが如きこれなり。「マルサス」も結婚に關し定式的に自ら左の演繹的立言をなせり、普通、即ち一社會に於ける平均數の家族を支持し得べき合理的見込の立つに到るまでは、何人と雖も結婚すべからずと。彼は英國人間に親たるの感情を嚴密ならしめんと願ひたるものなりき。

思慮的節制　マルサスの力説するが如き思慮的節制は容易に人口過剰の危険を防止する方法として行はるゝに至るべしと考ふるを得ん、然れどもマルサスは彼自身に於て屢、人が漸次に進みゆく文化のうちに抱括せらるゝ希望あるを忘れ、かへつて將來に關し悲觀的見解を懷くに至れり。かくて、マルサスの悲觀的推理を繼承せる他の學者は繰回さるゝ人口の過剰より、その結果として生ずる惡徳と不幸とが人類にとりて避け得べからざるものと考へたり。如斯き悲觀論のあるに拘らず、近世の文明は繁

榮を人民の間に傳播したるが故に、人口過剰の問題は大にその憂ふべき方面を失ひ、却りて希望に導くべき諸因を生せしむるに至れり。

統計學者は文明の進歩が到處出産割合に於ける減少の伴ふべきを結論的に表示せり。この出産割合の減少は、その尤も極端なるところの佛蘭西に於て始めて現はれたりといふべし、而し後年に至り佛蘭西及び其他の諸國に於て有福階級より職人階級を通じて最貧民階級に至るまで出産割合の減少が益、甚しきを加ふるに至りたるを表示せり。如斯く、大體に於て假令程度の異り又興味ある相違の認めらるゝとしても、この傾向が殆んど總べての進歩せる文明諸國、地方、人種、宗教及び社會的階級の人民間に行はるゝを見るなり。如何なる程度にこの傾向がマルサスの敘述せしところの思慮的節制の表明、又は伸長なるかは尙ほ或程度までは論争の餘地あるものなり、しかも如斯き議論に入るは提要的なる本書の如き限りある紙面に於て善く盡し得ざるところのものなり。

人口と生活の標準

後に賃銀及び勞働問題に關する章に於て吾人は較、詳細に、生活

の標準——人民が享悦するを常とするところの必需品、快意品及び便宜品の總量——が人口の上に働くところの勢力を研究せざるべからず。而して吾人はこゝに生活の標準が高度にして、且つ健實に維持せらるゝ處に於て、この生活の標準を脅かすところのものは、その如何なるものなるにもせよ、已に説明したる阻止的抑制となりてその作用を起すに至るべきものなることを注意するに止むべし。然れども生活の標準は絶對に固定せらるゝものにあらず、而して阻止的抑制の作用によりて起る人口の變化は唯徐々に來るものなり。夫故に生活の標準が繼續的なる國民的災害又は下幸によりて侵さるゝときに、次代の國民は低き生活程度に甘せざるを得ざるに至るべし、而して低度の生活標準に依るが爲めに、人口の更に大なる増加は可能のことにして、又自然のことなるべし。如斯き人口増加の可能性は殆んど考慮せられざりしところの戦費の一部を表示するものなり。

人口増加の二源泉 全世界より離して各國を別個に觀察するに、如何なる國にても人口の増殖に關して二個の源泉を有す——**自然的増加及び移民**是なり。自然的増加は

如何なる國に在りても**死亡數に對する出産數の繼續的過剩**によりて起るものなり、換言すれば平均して**出産率**が**死亡率**より多きことによりて起るものなり。乍併此の如き人口過剩は種々異なる幾多事情の何れよりも生ずるものなり。かくして露國の如き國にありては**死亡率甚だ高きもその出産率が更に一層高きを以て人口は増加す、然るに他の國、即ち英國の如き國は出産率低きも其死亡率が一層低きを以て人口は増加す。勞力に堪へ得る人の割合、即ち國民の勞働力の割合は死亡率の低き所に更に大なるべきは明白なり。又明かに人口の増加は此等事情の何れかその一に基因するの相違によりて一國の眞の幸福に大なる相違を生ずるものなり。我が合衆國の人口は自然的増加及び移民の兩途より、一世紀間餘に驚くべき速度を以て増加せり。現時の歐洲大戰の開始せらるゝに至るまで移民は年々間斷なくその増加を繼續せり、而して假令へ**出産率は次第に低落しつゝあるにせよ、その死亡率が殆んど絶えず低落したるが故にその結果として人口の自然的増加は抑止せられざるなり。****

資本

資本の定義 生産の第三要件、即ち第二位的又は派生的要件は資本なり。資本は土地又は勞力そのものにあらずして、此等兩者より派生す、しかも特殊の性質を有する一の新らしきものなり。日常の談話に於て「資本」なる語は經濟學上の用語として考ふるに全く資本に非ざるところの事物を表示するために屢、漫然と使用せらるゝものなり。かくしてこの資本なる語は土地をも抱有するものゝ如くに使用せらるゝなり、何んとなれば多くの關係上、營利事業に従ふ人々にとりて、其使用する土地と機械との間に甚しき相違あらざればなり。尙ほ學問上、この二者は截然區別すべき者なり。又事務的才能は屢、箇人的資本として記述せらるゝ者なり、而して此比喩的表明の用ゐらるゝは該種才能が價值を有すといふにあるなり、然ども如斯き用語はただ比喩に過ぎざることを常に記憶せざるべからず。土地は天然なり、資本は人間の生産せるものなり。勞力は労働者の人格と聯絡して分離せられざるものなり、而して資本は此勞力よ

り生ずる物質的の物なり。日常の談話に於て實業家は更に屢、其會社組織なると、然らざるとに不拘、會社の資本株式の總量或は價值、土地、建物、商業株式、請取勘定、銀行預托金及び手許在金等を抱括せる現商賣の全價值の何れかを記述するために資本なる語を使用するものなり。夫故に此處に嚴密なる注意の必要なることは生産の第三要件を表示するために經濟學者によりて使用せらるゝところの用語資本は將來の生産の目的に對して使用せらるゝところの中間的生産物より成立すといふこと是なり。更に略語すれば、資本とは生産(のために使用せらるゝ)生産せられたる道具を意味するものなり。

資本的財貨の種類 資本は生産的手段として二個の本來的生産力を働かしむるところの仲介者なり。資本は建物、機械、器具の如き(一)凡べて人爲的なる生産助成物を含むのみならず、又將來の生産に用ひらるゝ生皮若くは鐵塊の如き(二)凡べての未完了財貨、而して又(三)最終消費者の所有に達するに至らず、然かも尙ほ場所及び時間效用の加へられつゝあるところの消費者の完了財貨をも含むものなり。此等部分的に製造せ

られたる材料は學問上「熟成工程」中にある者として説明せらるゝなり。最終消費者に所有せらるゝ充分に熟成したるの財貨は、假令その巧みなる使用により新資本は得らるるにもせよ、最早資本として考ふべきにあらず。

資本の職分 資本の職分は次ぎの如く説明し得べし——即ち人をして直接なる生産方法の代りに間接なる生産方法を使用して天然の材料及び力を最も完全に利用せしむる（こと其一なり）、間接なる生産方法に對して器具を備ふること及び第一次の努力と最後の結果或は消費との間に於ける間隙を成べく長からしむることによりて生産の結果を完成する（こと其二なり）。間接の生産方法は殆んど例外なく直接の生産方法よりも一層有效なるものなり、然ども是等の方法は器具又は機械を必要とし、且つ生産の長期に亘るものなり。かくて人は他の助力なく自己の體力に依頼する代りに杆槓を使用する間接方法によりて更に重量大なる物を動かし得るなり、何となれば彼は如斯にして自然力に援助を求めたればなり。而して機械に於ける各種の進歩改良は勞力應用の最も間接なる方法なり。夫故に資本的生産は其發達すると共に最初の着手より最後

の生産に至る間に階段の數を増加し、而して一般にその間隙の長さをも増加するものなり。改良は屢々工程を短縮するものゝ如く考へらるゝなり、然れども吾人をして充分なる研究に歸るときに、吾人は以上説明したる所の法則が一般に正當なること、及び該法則は資本的生産の尤も顯著に且つ重要なる諸原則の一に注意を向けしむることを知るなり。學生諸君は資本的又は迂回的工程の最終階段を全生産工程と混同するの陥り易き誤謬に自ら陥るを避けざるべからず。鐵道列車に乘車することは、車中に座席を占め而して空間を貫きて進行することよりも更に多くを意味するものなり。即ち汽車に乗ることは數年の過去に遡りて鐵道路床、橋梁、客車、及び機關車を造り、更には順次に作られたるところの資本の初期に屬する種々の形態を作り、而して其他幾多の歲月を重ねて人心に侵透するの事業を成したる人間の努力を意味するものなり。されば又農家に使用せらるゝ連枷機を善く注意するに當り、吾人はまづ第一に該機械が甚だ迅速に穀物を打ち落すことのみを心に留むるものなり、然れども該機械の生産に入り込る無數の階段と及び如斯く考慮せらるゝときの生産工程の延長とに回想す

るに至るまでは吾人はこの場合に於ける資本の眞職分を理解し得ざりしなり。勿論迂回的方法は目的にあらずして、目的を達すべき手段たるに過ぎざるなり。

資本の根源 資本は貯蓄の結果なりとは屢唱へらるゝ所なるが、此場合斯の如き資本の説明は少くとも誤謬たるを免れず、貯蓄は唯消極的に動くのみにして決して積極的な結果を生ずるものにあらず。吾人は貯蓄せんが爲に、まづ第一に貯蓄し得べき或物を有せざる可からず——即ち吾人は先づ第一に生産せざる可からず、而して更に其上、生存上必要なよりも更に多くを生産せざる可からず。換言すれば吾人は剰餘を有せざる可からず。若し如斯く生産せられたる剰餘が取置かれ、又は貯蓄せらるゝならば、該剰餘は資本たるを得るなり。

資本構成の方法 右の如き貯蓄が將來の生産に向つて直接、又は間接に使用せらるる時に資本たるものなり。貯蓄せられたる剰餘が資本に轉形せらるゝ最も單純なる方法の一は漁夫の場合を採りて説明するを得べし、彼は或時期に於ける漁獲物の或部分を以て自己の生活を支持すると共に、彼はその將來の勞力に對する生産を増加せんが

爲に小舟又は網を作り、又は他の装置をなす爲に勞働するものなり。進歩せる社會にありて、此等の手續は常に複雑なり。例へば農夫が收穫機の結束機を要する場合に直接に貨幣を支拂ひて購入すべし。然れども其貨幣は農夫が耕作より得たる收穫の剰餘を貯蓄したるものに對し報酬として受取りたるものなり。同時に農事用器械の製造を完成するに至るまで、種々の生産工程に参加し作業しつゝあるの人々は、前拂として剰餘より支拂はるゝことによりて彼等の生活を維持し得るものなり。製造業者の場合に在りても亦同様なり。製造業者は其生産物を賣却し、而して賣却の結果即ち代金を生活の料に消費するを得べし、或は總額よりは少く消費し、而して其殘金を以て自己に必要な形態をとれる資本を他より購入し得べし。又凡べて必要な機械を所有するに至りたる場合に、彼は其所得の剰餘金を或會社の株券に投資するを得べし。又此等の場合に於て該會社はこれを必要な資本財貨の購入に使用し得べし。而して凡べて此等の場合に於て貨幣の使用は取引の性質を錯雜模糊たらしむるものなるが、此等取引の性質は、結局するに消費者財貨の生産を増加し且つ容易たらしむるために社會

勞働力の一部分を完了消費的財貨の生産より資本的財貨の生産に轉向せしむるものに外ならず。

さて以上敘述せるところを摘要して、吾人は資本構成上に於ける階段を論理的に次の如く區別するを得べし、即ち(一)現在の必要を超えたる生産、(二)該生産物の或部分の消費を延期すること、及び(三)將來の生産を成べく大ならしむるために貯蓄せる剰餘の使用これなり。

資本使用の結果

茲に資本使用の結果に關して二三説明を要するもの残り。その

(1)第一は資本は生産物の數量増加を可能ならしむることなり。即ち資本を使用することなく單に手にのみにより生産せられたりしところの物は、資本を使用することによりて更に多く生産せらるゝ者なり。(2)第二に資本は之を使用することなくしては全く享悦し能はざるところの或財貨の生産を可能ならしむるものなり。かくして海岸を遠く離れたる地方にありて牡蠣、若くは他の貝類に對する慾望は、運搬業に投せらるゝ資本なくしては到底満足を得能はざるべし。(3)第三に資本は多くの場合に於て資本を

使用せざりし時よりも生産物の品質を高尙ならしむるものなり。

表現的財貨 若し稱して財貨といひ得るならば、所謂財貨の一種類は該用語の學術的意味に於て、特に資本より區別せざるべからず。この種財貨は吾人の早くより表現的財貨と稱するところのものにかゝれり、しかも社會の見地より觀察したらんには全然財貨に非ずして、ただ財貨の所有權を表現するの符號たるに過ぎざるものなり。手形、抵當、證書、債券及び株券の如きは社會的財貨に非ずして、單に所有權を表現するものなり。又特殊權利は社會的資本の一部にあらず。都市が市街鐵道の敷設及び運轉につきての特權を一會社に許可したるときに、それにより直接に新資本を生ずるものにあらず。都市は單に現存する社會的資本の使用をなすべく、又は社會的資本を創造すべく許可を與ふるに過ぎざるなり。

固定資本と流動資本 經濟學者間にありて普通に資本を固定及び流動の二種に區別す。流動資本とは唯一回或はその運用の一回轉にのみ使用せらるゝの資本にして、その價值の全部は直ちに完成せる生産物の價值に轉移するものなり。他の一方に於て固

定資本とはその繼續的運用を通じて連續するところの資本にして、其價值の一部分のみがその使用の度毎に生産物の價値に轉移するものなり。かくして製造に使用せらるる原料品及び半製品は流通資本の適例にして、工場の建築物及び機械等は固定資本の適例なり。

自由資本と特定資本 以上説明せるものと稍類似するも實際は、全く異れるところの分類は自由資本及び特定資本即ちこれなり。如斯く分類する場合に、此等用語は普通に於けるよりも更に多く關係的觀念によりて理會されざる可からず。特定資本は其形式及び事情により單に生産の一部門にのみ、若くは概ね生産の制限せられたる種類の數種の部門にのみ使用せらるるものなり。他の一方に於て自由資本は生産の種々なる種類の多數部門の何れにも適用せらるるところの資本なり。かくて石炭、鐵、獸皮等は比較的に自由なる形式をとりたるの資本なり、鐵道、運河及び多數の機械類は關係的に特殊化せられたるの資本なり。此區別の實際的重要は資本の自由なる形式が財貨に對する社會的需要に於ける變化に能く順應し得るの事實に存するものなり。か

くして若し國民の資本のあまりに大部分が鐵道事業の如き特定の形態に轉向せられたらんには、其誤謬は容易に且つ急速に矯正せらるべくもあらずして、其國の全生産は不良なる調節の爲に苦しまざる可からず。此の如き不釣合なる資本の放下は或經濟學者によりて恐慌及び産業的不景氣の最も重要な一原因として考へらるるものなり。

摘要

- 一、生産の三要件中土地及び勞力は第一位にして又本來的のものなり、資本は第二位にして、派生的なり。
- 二、土地は場所、自然力及び天然的富源を供給す。
- 三、勞力は效用を創造するを目的として、人間の精神及び身體を働かすところの努力を意味するものなり。
- 四、國民の勞働力は國民の能率及び數量によるものなり、能率は個々勞働者の能率に基くと共に又其組織の能率によるものなり、勞働數量は總勞働時間及び勞働者數に

よるものなり。

- 五、資本は將來の生産に向ひて用ひらるゝ中間的生産物より成る。
- 六、資本の構成は貯蓄又は可能的消費の延期に依らざる可からず。

復習問題

- 一、人口の抑制となるべき二三の例を挙げよ、如何に生活の標準が人口増加に影響しなすか。
- 二、何故に土地は資本と區別せられざるべからざるか、地上の建築物は如何なる種類の資本なりや、五年前に使用せられしところの肥料は如何なるものなりや。
- 三、如何なる利益が生産の間接的又は迂回的工程より得らるゝか、小麦生産の間接的工程の展開に於ける階段ステップの二三を挙げよ。
- 四、自由資本及び特定資本間の相違を區別せよ、又固定資本及び流通資本間の相違を區別せよ、表現的財貨とは如何なるものなりや。

研究問題

- 一、如何なる意味に於て勞力は凡べての財貨を生産するものなりといふことの眞理なりや、又如何なる意味に於て資本は生産的にあらずといふことの眞理なりや。
- 二、資本は人間との關係に於て自働的なりや、又他働的なりや、天然との關係に於て自働的なりや、又他働的なりや。
- 三、休養のためなる「テニス」遊びは遊戯として分類すべきか、又は仕事として分類すべきか、又好事的「ベースボール」、職業的「ベースボール」、而して強盜は如何に分類すべきか。
- 四、本章に於ける分解的研究の見地より米國の勞働力を論ぜよ。
- 五、幼兒死亡の永續的高率は如何なる結果を勞働人口の割合上に與ふべきか。
- 六、小麦「ブッセル」の最低平均費用と最低費用との間に於ける相違を表示すべき方法として報酬漸減の法則を説明すべき圖表を作るべし。

第三章 生産の組織

前章に於て吾人は生産の三要件につき考慮すべく、別々に各種要件の性質を研究し更に其能率と、其生産増加を支配する處の原理とを闡明せり。茲には現時に於ける生産が社會化せられ且つ組織化せらるゝに至りし、多種多様の方法に關して研究の歩を進めざるべからず。吾人は假令ば既に一機械の種々なる構成部分の性質を研究したる者の如く、今や此等の各種部分を組立つべき種々なる順序と方法とを研究し、而して該機械が組立てられたる時に如何に全體が單位として働きたりしかを學ばざるべからず。

一、集合的に觀たる生産要件の組織

往時の生産組織は單純なりき。生産てふ大なる機關の三大部分が土地、勞力及び資本なることは已に之を論せり、而して夫故に先づ始めに此等の部分が如何に有效なる仕事を爲すために結合せらるゝかを考察せざる可からず。換言すれば、茲に論せんと

する最初の問題は共同的又は集合的に働く生産要件の共同作用、又は組織に關するもの是なり。この生産組織は社會發達の當初の時代に在りては非常に單純なるものなりき。古代の家内經濟はもし其事の今日一般に行はれしとするも生産上其等三要件を區別し得ると考へ及ばざりしまで單純に組織せられたりしなり。即ち同一人は土地、勞力并に資本を所有し、而して正當なりと信せらるゝ判斷によりて全生産物は其生産を幫助せる人々の間に分配せられたりき。文明の進歩と共に生産が村落により行はるゝに至りたるの時生産上必要なる器具は共同的に所有せられ、又生産は共同支配によりて管理せられ、而して生産物の分配は風習によりて支配せられたり。其後、産業及び商業の「ギルト」制度の下に於ても生産の三要件間に嚴密なる區別はあらざりき。中世期の「ギルト」は年期奉公人、職人及び親方の三者を包括せり、而して「ギルト」は統御的監督の下に産業及び商業を支配せり。親方(主人)は營業を指揮し、資本を有し、而して自ら勞働せり。彼は奉公人を給養し、而して職人に支拂ひたる後に商賣より得たる全生産物を收得せり。勞力は或る程度に於て他の要件より分離せられたり、然れど

も其分離は完全なるものに非ざりき。如何なる時にありても勞力を供給せしところの人（即ち奉公人若くは職人）は當然のこととして順次に自ら資本家、傭者又は管理者たるべき時の來るを翹望し、且つ勉勵せり、何んとなれば斯の如き昇進は「ギルト」制度の常習的部分なりしが故なり。

益複雑となる 已に説明したるが如く、過去百五十年間に吾人は生産要件の組織に大なる變動の起りたるを目撃したり。今も尙ほ此處彼處に往時の單純なる痕跡は残れり、而して生産の一大分派たる農業は今日我合衆國に於て一般に三要件の分離なく經營せらるゝあり。我が小農夫の最大部分は自らその耕作すべき土地及び要用なる資本を有し、而して生産上、全部或は其大部分は彼等自身の勞力并に家族の勞働に依頼するものあり。然れども商業、製造業及び運輸業に於て、今日一般に勞力を供給せる一大階級、資本又は時として土地を供給する他の階級、而して事業を組織しこれを經營する第三階級の三階級あるを見るなり。近代の鐵道會社の如きはその好適例なり。債券及び株式の所有者は資本を供給し、而して報酬として債券に對して利子を受取り株

式に對しては配當金を受取るものなり。他の階級によりて供給せらるゝ勞力は賃銀又は給料の支拂を受くるものなり。土地は又通例債券所有者によりて提供せらる、蓋し此等の土地は彼等資金の一部と交換して取得せらるればなり。而してその結果として、假令土地が直接に購入せらるゝことなく借地せらるゝの場合を除きて、鐵道會社の簿記計算上に、分離せる項目として地代を見ることなきを常とすと雖も、吾人は地代の支拂はるゝを見るなり。終りに、會社員たると然らざるとを問はず、株主によりて選任せられたる營業上の管理者又は支配人は、生産組織に於ける一の分離せる階級を成すものなり。

企業家 營業組織の益、複雑となるに隨ふて中心となるべき指導的聰明の益、必要となるは言ふまでもなきことなり、而して此聰明により全產業界を通觀洞察し而して如何なる事物が生産せらるべきものなるか、又如何なる數量に生産せらるべきものなるかを決定したる後、生産の必要要件が該生産物の創造上に共同的勞作すべき準備をなすものなり。即ちこの衝に當るところの人は常に損失及び失敗の危険を負擔し、而し

て他の一方に於て彼に對し生産上の必要要件を供給したる人又は階級に對して約束せる金額を支拂ふものなり。

十八世紀頃の英國に於て、此等企業家は「アンダーテーカー」又は「アドヴェンチュアラ」と呼ばれたりき。其後「アンダーテーカー」なる語が商賣人の小規模なる特殊階級に限らるゝこととなり、而して「アドヴェンチュアラ」なる語が今や無謀なる、又は不正直なる聯想を起さしむるに至りたるより英語の「アンダーテーカー」と全く同義なる佛蘭西語の「アントルブルヌール」は、假令近年に至りて「インタープライザー」又は比喩的名稱たる「産業的將校」なる言葉の屢々代用せらるゝも、尙ほ今日一般に使用せらるゝに至れり。

企業家の職分は近世の産業社會にありて最も重要な者となれり、而して産業組織の複雑に進むと共に益々其重要の度を増加しつゝあるなり。彼はよく「産業的將校」と稱せらる、何んとなれば彼は産業的軍隊を訓練し及び指揮し、而して事業の失敗及び成功に對して何人よりも更に多くその責任を負ふものなればなり。優秀なる指導者の下

に立つ事業計劃は光輝ある成功を奏するものなり、然れども如斯き、指導者の死亡によりて指導的手腕と頭腦とが取去らるゝ時には衰頹に陥り、又は全然破産の悲運に沈むものなり。かくして多くの場合に大都市の繁榮すると否とはその産業界の卓越せる「キャプテン」の活動如何によるものなり。乍併事業の成功に關して如何に卓越の人なりとも個人の重要は全體として産業の益々複雑なるに従ひ、恐らくは減退するに傾くものならん。従つて彼大なる重役會と多數の業務執行役員とを有する尨大なる近代的營利會社の組織は單一個人の生活及び事業に於て避くべからざる機會と變化とを拒否するところの非個人的鞏固性及び恒久性を得んとするが如きの狀勢を呈するに至れり。

さて前章に於て説明せる生産の三要件に加へて企業家、又は企業家たる資格を殆んど生産の第四要件として論じ得る如く企業家たるの職分は近代産業に於てしかく重要に、而して企業家の動勞はしかく特殊的なるものなり。されば後に至りて種々なる生産要件によりて獲得せる社會收入の割前を論ずるの時に吾人は利益なる名稱の下にその分離せる割前を研究し企業家たるべき特殊なる性質を承認せざるを得ざるべし。

事業經營の形態 事業を計劃する企業家の資格は常に單一個人によりて試みらるゝものにあらず、かへりて急速に増加しつゝある事業の擴大は、反對に多數個人間に企業家の職分又は職分の一部を分擔せしむるところの形式によりて經營せらるゝの氣運に向へり。左に擧ぐるものは、近代の産業社會に於ける事業經營の主要なる形式なり。

(一) **單一企業者組織** 事業經營の此形態に於て單一個人は資本及び土地を所有し又は賃借し、勞力を備使し、事業を指揮して、危険の全部を負擔するものなり。

(二) **合名會社**、**合名會社**の場合に於ては所有權、指揮及び責任が、時としては平等ならざる割合によりて二人若くは二人以上の社員間に分配せらるゝものにて、社員は法律上彼等の全財産を擧げて其責任に當るものなり。

(三) **營業會社**、此形態は會社社員の個人的責任が如斯き會社を監望する特許若くは法律によりて、制限せらるゝの事實により、及び更に如斯き會社の生存年限に關して必然に法律上の制限あらざるの事實により前に説明せるものと同一ならず。此形態の下に行はるゝ商業取引が大規模なるがために企業者としての職分は屢分掌せらるゝ、即ち株主は事業を所有し、而してこれを管理し、且つ危険を負擔す、然れども事業の實際的經營は株主の選舉せる重役に委任せられ、而して更に又重役の任用せる管督者及び支配人に委任せらるゝものなり。

過去五十年間に於ける北米合衆國に於ける産業の尤も顯著なる特徴の一は個人的企業及び合名組織の事業經營より會社組織の事業經營に推移せるの一大傾向にして、殊に運輸業、鑛業及び製造業の分野に於て然るなり。運輸業は殆んど完全にこの形式に進みたり。鑛業はあまりに後れたるものにあらず。第十五回米國國勢調査によれば、製造業にありて合本組織の會社は千九百九年に生産せられたる、全製造物價格の七九「パーセント」即ち略五分の四を生産したり。而して十年前に於ける全製造物價格の六五「パーセント」は合本組織の會社によりて生産せられたりしなり。従つて千九百二十年に於て合本組織の會社によりて生産せらるべき、全製造物價格の割合が九〇「パーセント」に増進するに至るを想像し得べし。然るに農業上に於けるこの傾向は米國國勢調査が土地所有の形式につきて何等の研究を爲さざりし如くに甚だ微少なるものなり。

然れども農園が普通に會社組織によりて所有せられ、而して經營せられつゝあるは一般に知らるゝところの事實なり。

(四)組合事業、學理上組合生産として知らるゝものにて、労働者は、合名又は合本組織の何れかの形態により生産の他の要件、即ち土地及び資本を所有し若くは管理するために結合し、凡べての危険を分擔す、而して事業の指揮は執務の爲め組合中より選みたる社員又は有給の支配人によりて爲さるゝものなり、夫故にこの形式は法律上の性質として前件合本組織のものと區別し能はざるなり。

(五)政府企業(官業) 合衆國政府、州政府及び地方政府は種々重要な多くの事業を所有し之を經營す。此等の場合に於て人民は全體として該事業を所有し、而して凡べての危険を負擔す、同時に彼等は該事業の指揮を選擧又は任命せる支配人に委託す。

二、生産要件たる勞力の組織

事業經營に關する形態の研究に於て、吾人は社會が全體として生産要件の協力及び

組織を成就し得る種々異なる方法を實際に研究したり。茲には個々に離して考慮したりし各要件がその能率を増加するために組織せらるゝの方法如何を研究すべし。而して先づ勞力より始むべし。

若し他とその生産物を交換することなく各個人が各自に要する凡べてを生産したる場合につきて考慮し得たらんには、吾人は孤立的、或は非組織的勞力及び非組織的生産の事例を有することゝなるべし、然れども此の如き極端なる状態が何處に存在したりしやは明かならず。吾人の知る限りに於て人々の集合する處には必ずや幾分かの社會化あり、生活上の安全を得んが爲に盡くすところの彼等の努力に幾分かの組織あり、生産要件たる勞力に幾分かの組織あるものなり。

勞力組織の形態

(一)單純協力 最も早く人々の間に發達したる組織的形態にして、而かも世界經濟に於て今日尙ほ著しき部分を占むるものは單純協力作と稱するもの是なり。一團の人々が重量の大なるものを擧げんが爲に彼等の力を結合する時、又は二人が熱灼せる鐵を同

時に連打し、又は木挽業に共同勞作するとき、吾人は勞力組織の此單純なる形態を説明するところの好箇の實例を見るなり。此等の場合の第一に於けるが如く、この結合は時としては全く單一個人によりて爲し能はざるの結果を成就するものなり。結合は常に多數個人の努力を合計せるよりも、一層大なる結果を成就するものなり。

(二)職業の分立(分業) 文明の進歩と共に、産業は全體として益々各部々々に分離せらるゝに至れり、而して夫故に其等各部分は更に分離して絶へず小なるものとなれり。

勞力の組織に於ける太古時代の一時期、——恐らく前きに記述せるものよりも更に早かりし一時期——は原始的社會の人類が各自の仕事を始め分つに至りし時に起りたりと見るべし。而して爾來社會の全歴史は獨りその經濟方面に於てのみならず、凡べての方面に於て、其仕事又は職分が益々多く特殊化せられ、分離せるの事實を記述するものなり。しかし區分及び小區分が絶へず起ると共に進歩の道程に於ける各階段の凡べてを承認し、而して之に命名することは明かに不可能なり。然れども此等階段中の二階級は一般に特別なる性質を有するものとして承認せらる。その第一は吾人が職業

の分立(分業)と呼ぶところのものなり。此の如き區分の原始的形態は野蠻人の間に見るを得べく、かの戰鬪者及び狩獵者としての職分を男子自ら採り而して家事及び農作を婦人に分擔せしめたるは是なり。而して職業の分立、即ち分業は無數の商業及び職業の名稱によりて表示せらる。

(三)勞力の分立(分勞) 更に現存職業の小區分は概して過去數世紀、殊に二世紀間に起りたるものなり。この一層進みたる勞力の小區分、即ち一層進みたる勞力組織に對して學術上「勞力の分立」(分勞)なる名稱は與へられたり、而して職業の分立(分業)は最も早く大仕掛に區分せられたる勞力の分立即ち分勞なりといふべきなり。この勞力組織の形態は、詳細且つ慎重なる研究を必要となすが如く近世の産業に於て最も重要なものなり。

生産の一要件たる勞力を論せしときに、吾人は勞力の能率如何は大體に於て勞力組織の有効なるや否やによりて決せらるゝものなるを指摘したり。而して如斯き組織の有効如何は高度にまで勞力の分立、即ち分勞によりて得らるゝものなり。分勞は分業

と共に同様なる程度に勞力の共同勞作なりと稱するを得可し。今日生産的工程、特に製造業に於ける工程は微細なる部分にまで區別せらるゝに至れり、即ち事業の一部、又は恐らく多くとも二三の小部分が各勞働者又は勞働者の各集合體に分配せらるゝものなり。かくして近代の時計製造所に於て一人の勞働者は懷中時計の一小部分のみを作り、而して他は第二の一小部分を作るが如く多數の部分に細分せらる。かくて懷中時計を製造する生産工程の區別は三百人より少からざる勞働者が、斯の如き時計會社の事業を有效ならしむるために必要なりと稱せらるゝまでに多數なり。これと同様に曾つては靴を製造するに、凡べての勞作を一人にてなしたりしに、今や吾人は前面截工、後面截工、後柱截工、頂部截工、縁截工、裏截工、截詰及摺工、型及函製造、後柱削革工、頂部削革工、殘附工、前部仕上工、上前面縫工、上後面縫工及び其他を通じて百十三の多きに細分せらるゝを見るなり。然れども勞働者は彼等自らの間に勞働工程を分配すると同時に、一の完全なる貨物を生産するために共同し結合す、而して夫故に吾人は勞力の分立、即ち分勞は勞力の共同勞作なりと云ふを得るなり。されば「勞

力の分立」なる語を使用する時は、吾人は生産工程の方面を觀察しつゝあるなり、同時に勞力の共同勞作につきて論ずる時は反對の方面より觀察しつゝあるなり。而して職業の分立、即ち分業の場合に於ても亦同じ。

勞力の分立即ち分勞の解説 分勞を尤も善く説明するの例は今日普般に行はるゝ針製造業に於て見るを得べし。扱、其自身已に高度の分勞により生産せられたる鋼鐵製針金は針製造所の原料品たるなり。總じて針はみな同様に一般的生産工程を通過するものなり。工場參觀者の目撃するが如くその製造の完成せらるゝ迄の工程は次の如く簡単に説明し得べし。まづ第一に針金は伸張機と稱する器械により線の歪み又は曲りを直され、次ぎに切斷器によりて仕上りたる針の凡そ三分の一位の長さに切斷せらる、之を「ブランク」と稱す、次ぎにこの「ブランク」の短かき鐵片は、更に小さき鐵の圓筒管に轉置せらるゝなり。而して該圓筒管は鐵片を管中にて磨擦せしむるが爲に間斷なく回轉す。かくして鐵片はその外部に附着せる鍛層及び汚點を取り去られて次ぎの工程たる「コールド・スウェーギンク」に送らる。この工程に於て該鐵片は一の漏斗形

の器械に置かるゝと共に、夫より機械により一回一本づゝ取去られ、而して該鐵片の一端は鋼鐵製の截斷型の回轉に接觸する様に向けらるゝなり。此回轉する截斷型の間斷なき開閉によりて鐵片の一端は壓搾せられ、而して針の尖端を作るために引伸さるるなり。此仕事の了りたる後、他の機械によりて針の扁平なる表面に如何なる種類の針が製造せらるゝものなるかを表示するために記號又は數字を刻印す。次に同様な長さの凡べての鐵片を取揃へるために長さの不揃ひなるものを切斷す。斯く記號の刻印せられ長短の整理せらるゝや、次ぎには「グルーヴィング」と稱する器械に送らるゝ而して此器械によりて針の一面に短かき溝と他の一面に長き溝とが同時に作らるゝなり。この仕事の了りたる時は針目を穿つ許りに出來上りたるなり。此針目を穿つ仕事には通常女工を使用するものなるが、此仕事は熟練なる指端と鋭敏なる視力とを働かして巧みに針と機械との接觸調節に注視するの必要あり。而して一女工は近代の機械を用ゐて一日七千本の針目を穿つを得べし、即ち一分間に十二本以上を穿つの割合なり。次ぎに針の尖頭は機械により圓形、旋條、菱形等の如き種々の種類に應じて作ら

るゝなり。かくして針の製造は大體に於て終りたるものなり、尙ほ其尖頭たる鋼鐵の柔軟なるは實際の使用上効果あるものにあらず。夫故に更にこれを堅硬ならしめさるべからず、これがために更に種々なる工程を要し、従つて更に分勞の機會あるものなり。次ぎに又其等の針は機械を使用して鋭くせられ、又磨かるゝものなるが、該機械は一回に凡そ百本の針を支持して一分間に八千回も回轉する眞鍮線の磨擦刷子に掛け、其後更に剛毛刷子に掛くるの用をなすものなり。また針目は摩擦力が針目の孔口全部に作用し得るやうに針に對し種々なる角度をとりて前後に張り、而して油及び金剛砂の附着せる木綿糸を通じて磨かるゝなり。次ぎに仕上げ研きには細密なる金剛砂を用ひ、仕上げ磨きには「クロカス」磨粉及び「アルコール」等を用ひ何れも回旋刷子を以て仕上げらるゝなり。數を計算し、紙に包むことも亦分勞の機會を供するものなり、而して此等分勞によりて精力の經濟は極度に行はるゝものなり。

勞力の分立即ち分勞の利益 經濟學者が普通に分勞の利益として擧ぐるもの次ぎの如し。

一、まづ第一に受くる處の利益は時間上の所得又は節約、此利益は二方面より生ず。

(a) 労働者が一の作業より他の作業に屢々轉ずるの必要なきこと、

(b) ただ少許の時間にて特殊なる生産工程を學び得ること、

二、第二に分勞は熟練上の利益あるものなり。

三、第三に分勞は各個人が各自に適當なる場所を見出し、而してその場所に各個人を排置し得る適用上の利益あるものなり。身體上、精神上強健なる人は彼自身に適應して最も價值ある仕事に全時間を捧げ得ると共に、筋肉に於て精神に於て虚弱なる人は大なる力の部分的に消耗せらるゝ仕事に従事するを得るなり。

四、第四として分勞は人を發明に導の利益あるものなり、生産工程の單純化せらるゝより個人労働者は自ら其等工程を深く熟知するに至るものなるが故に、如何に改良すべきかの焦點に想到し得るの便宜あり。此理由によりて益々盛なる近世的發明の大部分は労働者の頭腦より案出せられたり。

五、最後に分勞は資本の利用を更に完全ならしむるの利益あり。即ち各労働者は一個

の又は一組の道具を使用し、又は一臺の機械を運轉するを以て此等の資本を始終間斷なく使用し得るものなり。

勞力の分立(分勞)の不利益 然れども分勞にも亦不利益なる他の一面あり。

一、まづ第一に、この分勞組織は婦人及び幼年者の雇傭を容易に且つ有利ならしむるものなるを以て、屢々傭役中の男子労働者を驅逐し、而して婦人及び幼年者の虐使に導くものなり。米國諸都市に於て、吾人は時々父が「留守居」として家に止まり、却つて家婦及び兒童等が長時間工場に働きつゝあるの奇觀を見出すことあるなり。

二、第二に、分勞は相互に他の人に依頼するの傾向を増大す、此の如きは少くも部分的に弊害たるを免れず。されば或る産業——例へば鑛業——に於ける労働者の特殊なる集團によりて起されたる同盟罷工は、其商賣に従事せる凡べて他の人々を傭役より離れしむるのみならず、又罷工の起りたる産業の生産物によりて作業する他の仕事に従事する數千又は數萬の労働者を労働以外に放逐するものなり。同様な種類の困難は新職業を修得するに老ひ過ぎたる労働者が、生産の事情又は方法に起りたる變化に

よりて従來の備役より驅逐せられたる時にこの分勞より起るものなり。かくして活字組立機械の發明は高度の熟練に達し、而して高給の支拂を受け居る職工の數百人を備役以外に放逐するものなり。此等の弊害は、慥に長時期に亘りて矯正せらるべし、然れども或論者が痛切に論及せるが如く、如斯の長時期はその生涯の短期なるところの普通人にとりてはあまりに長きものなり。而して兒童等が家長の餘儀なき強要的怠惰により壞亂せる家庭に於て養育せられざるべからざる場合に如何に長くこの期間が必要とせらるゝか。

三、分勞組織と關係して起る第三の弊害は分勞によりて勞力がその吸引力を失ふと同時に又教育上の價值を失ふことなり。懷中時計全部を一人にて製造するところの勞働者は技術者として其仕事に對し愛好の念を生ずるものなり、然れども誰か一日十時間を型の表面に金屬の平圓盤を嵌入するが如き單純なる仕事に對し愛好の念を起し得るか。或論者の「人をして留針の製造に於てその第十八部の分勞以外に何事をも爲さざらしむるは、其人に對して誠に氣の毒のことなり」といへるは痛切にあらずや。

三、生産要件たる資本の組織

前章に於ける勞力組織の研究に於て、勞力の組織は資本の組織と密接に親和抱合するものなることを記述したり。勞力の分立即ち分勞が近世的産業の特質たる機械の形態をとりたる資本の組織なく決して發達し得ざることは針製造業に於ける分勞の記述によりて明かなり。夫故に吾人は此二者を互に分離せしめて、更に資本の組織につきて研究を新にするの必要を認めず、何んとなれば勞力組織につきての論究はただ微少の變更を加へて資本組織に應用し得ればなり。於是、吾人は直ちに他の生産要件たる土地の研究に進まん。

四、生産要件たる土地の組織

地域的分勞 或る範圍まで天然的要件の組織の場合は資本の組織の場合と同一なり。勞力とは常に資本の助力によりて天然的要件に適用せられたる人間努力の謂なり。

り。夫故に勞力の組織は概して天然的要件及び資本の使用に關する組織を同時に包括するものなり。然れども茲に生産要件、天然によりて一般に制限せらるゝ生産組織の一形態あり、而して吾人が之を天然的要件の組織の一形態として論究するは無益の事にあらず。この形態の組織を呼ぶに普通二個の名稱を以てす、一は「産業の地方化」、而して他は「勞力の地域的分立」即ち地域的分勞是なり。勞力の分立の場合に於けるが如く産業の地方化に於ても該傾向は、前者は各個人間に、後者は各地方間に、生産的職分を専門化するの方針に進みつゝある在り。かくて地方又は村落が都市に對し食物を供給し、其交換として製造せられたる財貨を收受することの地域的専門化——斯くて社會は勞力を地方的及び都市的の二方面に區分するに至る——は野蠻時代に於て男子と女子との間に起りたる職業の原始的分立と類似す。而して或る農業地方が殆んど排地的に或る一種の生産物、又は僅少なる二三種の生産物のみを生産し、同時に他の一方に於て製造業の中心地は之と同様に或る一種の貨物又は僅少なる二三種の貨物のみを製造するに過ぎざるまでに産業の専門化に進みたるは、已に論究せる勞力の分立

即ち分勞の形體と其軌を一にするものなり。

第十二回合衆國國勢調査は勞力の地域的分立、又は産業の地方化に關して有益なる多くの説明を與へたり。該統計に據り合衆國に於て製造せらるゝ手袋を、その價格によりて計算するに、總生産額の半額以上はニュー、ヨーク州の東中部地方に於けるグロヴァースヴィル及びジョンスタウン附近に於て製造せらるゝものなり。更に製造せられたる手袋の價格はグロヴァースヴィルの場合に於て其地方の製造にかゝる總生産價格の三分の二以上は同市の生産にして、又ジョンスタウンの場合に於て二分の一以上は同市の生産なり。ニューヨーク州トロイは價格に於て合衆國內に於て製造せらるる「カラー」及び「カフス」の殆んど四分の三を製造せり、而してトロイに於て製造業に従事する總労働者の略十分の七は此製造業に従事しつゝあるものなり。フィラデルフィア市は合衆國に於ける敷物の四五「パーセント」以上の生産を爲せり。ネブラスカ州サウスオマハに於ける労働者の十分の九は屠獸業及び肉類包装業に従事せり。而して第十三回國勢調査は勞力の地域的分立即ち地域的分勞が千八百九十九年に於けるより

も遙に進歩せるを示せり。

さて如斯く産業の地方化に導くところの諸原因中、左に擧げたる數事項は恐らくその最も重要なものなるべし。(一)材料供給に接近しあること、(二)市場に接近しあること、(三)水力の便あること、(四)氣候の順和なること、(五)必要なる勞力の種類に關して地方的供給あること、(六)投資に關して資金の地方的供給あること、(七)最初事業を始むるあたり動機の與へらるゝこと等是なり。此等種々なる原因は勞力に關するよりは寧ろ地理的考慮によるものなれば、その何故に吾人が勞力組織の形態としてよりは寧ろ天然的要件組織の形態として産業の地方化を論究するかを理解し得べし。高度の文明が勞力の専門化又は分立を益増加せしむる如く、吾人は地理的界線に沿ふて産業の専門化が將來益盛なるを目撃するに至るべしと期待し得るなり。政府は益鞏固なるものとなり、快速なる運搬方法は更に改良せられ、人種的猜疑及び偏執は破却せられて、こゝに世界的市場は可能的に實現しつゝあるなり、而して世界的市場の實現と共に各國及び各國の各地方は關係的なる最大利益を極度に享受せしむる財貨の生産に心を用

ゐるの經濟状態に到達するや疑ふべからず。

五、生産組織を決定する條件

吾人は已に生産組織の能率が依りて定めらるゝところの一二の條件を論究せり。尙ほ此點に於て其等の條件を聯結し、而して同時に組織の如何に拘らず、凡べての生産を定むるところの更に重要な要件に關して説明を試みるは無用にあらざるべし。

一、人口の延長及び性質　まづ第一に論理上重要なものは人口の大サ及び性質なり。消費者にして更に多數ならんか、従つて財貨の供給は更に大ならざる可からず、而して如何なる貨物なりともその供給更に大ならんか、概して生産を經濟的に有利ならしむる爲に其組織は一層精細なるものとなるべし。此觀念は「勞力の分立即ち分勞は市場範圍の大小によりて決定せらるゝものなり」との敘述によりて屢々表示せらるゝなり。

二、資本の増加　産業組織の第二の大なる條件は資本の増加にして、その増大は機械の形態に於けると、若くは運輸交通及び交換の機關たるの形態に於けると其何れたる

を問はざるなり。機械の改良は産業の専門化及び組織を更に技術的に可能ならしむると同時に又鐵道、電信及び銀行等は市場を擴張せしめたり、而してこれによりて如斯き産業組織をして經濟的に可能、即ち有利ならしむるに至れり。

三、産業の性質 人口又は資本化の程度如何に拘らず、凡べての産業は前に敍說せしところの産業組織の或る種類に等しく適合するものにあらず。由來農業は今日に至るまで概して精細なる分勞に關する凡べての計劃を排せり。これに反して製造業は高度に進みたる分勞を採用せり。この相違に關し、學問上より其理由を明にするの論究に入ることなく、吾人は産業の内部にありて精細なる組織の必要とせらるゝは主としてかゝる産業に於て種々異なる工程が同時に行はれ得るがためなりといふに止むへし。かくして産業上のこの状態は製造業の特徴となすべきものなり、しかもこれに反して天然の變化に左右せらるゝ事實が必然に耕作上の連続工程に現はるゝところの農業の場合にありては全然この性質を缺くものなり。

四、政府の性質 産業組織の能率に關する第四の條件は政府の性質なり。最も進歩せ

る邦國に於てすら其の政治的構成に於て、又は強制せらるゝ法律上の状態に於て多くの相違あるものなり、然れども凡べての文明國は其政治組織を有效ならしむべく少くとも次ぎの如き状態を維持せり、即ち此等文明諸國は(一)私有財産制度を維持し、(二)國境の内外に於ける敵の侵略に對して國民の生命及び財産を保護し、(三)契約制度を創設し及びこれを維持し、(四)個人が全然着手せざること及び社會全體として産業の最良なる利益の個人によりて擧げ得ざることの明白に立論せられたるところの産業を直接に經營するものなり。かくして凡べての文明諸國政府は貨幣制度を維持し、度量衡を統制し、及び船渠、燈明臺、道路等を建設し且つこれを管理し、又海外諸國に領事制度を設置し且つ維持するものなり。

六、大規模生産と小規模生産との比較

近代に至りて個人的事業の平均大サは驚くべく急速に増大したり。實に過去半世紀間に起りたる事業單位の規模の上に起りたる變化は恐らく十八世紀の後半期に於て家

内工業より工場工業に移りたる變化の如く顯著なるものなり。この變化の運動はその社會的結果に關して一般に恐怖を誘致するに至りたるまで遙に進みたり、而して今も尙ほ急速に進みつゝあるなり。尨大なる競争的合本組織の合同より生ずる或る種の危険につきては後に敘説する處あるべし、然れどもこゝには便宜のため、生産組織の問題と聯絡して大規模生産より生ずる利益と、而して他の一方に於ては個々別々に又は共同協力に於ける小規模生産者の收得する經濟とに關して簡單に論及すべし。

大規模生産の利益 大規模生産より生ずるところの利益は一般に自ら二種類に區別せらるゝものなり、即ち一は(一)財貨製造上に於ける經濟にして、他は(二)財貨賣却上の經濟なり。

(一)財貨製造上より見たる利益 さて第一に關して大規模生産は次ぎの如き節約ありと主張せらるゝものなり。

(a)生産物の各單位に對し使用せらるゝ固定資本又は流動資本に要する資本的費用を節約し得。

(b)最も有效なる組織の可能なるにより勞力的費用を節約し得。

(c)専門研究家又は發明家の聘用により、及び同一工場の異なる諸分科に於ける方法と又は同一所有者に經營せらるゝ種々なる工場の同一分科に於ける方法とを比較研究して改良進歩の行はるゝ可能性あるによりて節約し得。

(d)監督費用を節約し得。

(e)「スタンダード」石油會社又は牛肉及び豚肉罐詰會社等によりて經驗せるが如く廢物利用によりて節約し得。

(f)會社自ら使用する箱又は罐其他を製造すること、又は自ら鐵道或は蒸汽船を有するに依りて製造上及び市場向輸送上他の力を借ることなく自ら用辨し得ることによりて節約し得。

此最後の利益を享有する事業に於て、吾人は産業の集中若くは統合の好適例を見るものなり。

(二)貨物の市場向輸送上より見たる利益 大規模生産より生ずる第二種類の利益中、

財貨を市場に輸送するにあたり得らるゝ經濟は次ぎの如し。

- (a) 廣告し又は行商を送ることによりて販路を求め得るの經濟。
- (b) 關係的最少の貯藏貨物を以て需要の動搖に十分應じ得るが故に貨物貯藏上に得らるゝ經濟。

(c) 數量の大なる貨物に對しその運賃を特別低廉ならしむる力と、又或る會社が「通過貨物」^{フット}としての取扱ひを——即ち常に供給の尤も近き地點より財貨を發送し、而して夫故に消費者に到達すべき同一通路に於て相互に同種類なる財貨の發送を避け得る處の力とによりて消費者に財貨を供給するによりて得らるゝ經濟。

(d) 經濟界不景氣の時に大規模なる商社は常に起るところの激烈なる競争に耐へ得るの力を利用し海外市場に販路を擴張し得るより生ずる經濟。

小規模生産の有する經濟 大規模生産に以上挙げたるが如き利益あるに對し、次ぎ舉ぐる諸點を考慮すれば少くとも或る種の産業に於ける小規模生産の大部分が永續すべき約束あるものといふべし。小規模生産の利益とする諸點は次ぎの如し。

(a) まづ第一に經濟とみるべきは多數の事業に於て手頃の型なる製造用の機械は實際の應用上資本的及び勞力的費用に關し最大能率を有するものなりと専門家によりて力説せらるゝことは是なり。

(b) 多くの場合に於て、力の集中によりて運用せらるゝ大規模事業の利益は近代の發明、特に電氣力に關する發明が小規模製造業者を殆んど其競争者たる大製造業者と同等の地位に引上げべく動力の分配法を革命しつゝある事實によりて緩和せられつゝあるは第二の經濟なり。

(c) 更に小製造業者の特質として知らるゝ精密且つ經濟的なる監督を、大規模製造業者も同様に有し得べきかは大に疑なき能はず、換言すれば被備支配人は此點に關して自己の利害を感じる個人的事業家と競争し得べきかにつきて疑なき能はず。

(d) 小製造業者は其市場に於ける個人的慾望を察知するの力大なるを以て特殊の利益を有す。多くの産業に於て個人的素質は小製造業者が大製造業者を全然競争界より驅逐し得ざるまでも、永く之と對行して自ら維持し得るの要素たるものなり。

(e) 最後、隣接せる小製造業者の共同協力によりて、事業運用上、工程の發明及び改良に關して、大製造業者と同一なる機會を利用し得るは敢て不可能にあらず。(f) 而して、又大規模産業に於て常に起るものとして考へらるゝところの「廢物」の利用に關しても同一なる機會を有するものなり。

茲に注意すべきは、以上の比較は大規模生産と小規模生産との間に於ける比較にして、決して小規模生産と獨占的生產との間に於ける比較にあらざることとなり。然り大規模の生産は獨占的生產と全然同一なるものに非ず。若し吾人が獨占的財貨の生産に關して説くものなりとせば、以上挙げたる生産の利益及び諸節約の外に尙ほ多くの附加を爲し得るなり、而して已に説きたる利益の或る者は獨占の場合に於て更に大に強められ、又確めらるゝものなり。かくして「通過荷物」の場合につきて、又は廣告の場合に於て、大規模生産によりて利益は増加すと云ふを拒絶する多數の人々も、獨占業の場合に於て其等の利益を認容せざるを得ざるべし。

小規模生産及び大規模生産の關係的利益に關する以上の事項は近時に至りて寧ろ激

烈なる論争の焦點となり、従つて未だ何等の解決をも見ざるなり。

七、「トラスト」に對する社會の正當關係に 關する四個の觀察

世人が誤れる名稱「トラスト」によりて呼ぶに至りしところの大産業的會社に對する組織的社會(國家)の正當なる關係に關して四個の觀察は論理上可能なるものなり。

まづ第一の觀察は巨大なる會社は功績に於て又屬望に於て何れも福利的なり、故に社會は干涉することあるべからず、而してその所有權及び管理に於て其等の事業に直接關係するところの人々は、一般公衆が如何に其等の事業が運用せらるべきものなるかを知り得るよりも更に細しく之を知り、而して自我的利己心より生ずるところの社會的損害——若し如斯き損害の起るものとして認容せらるゝならば——かゝる損害が如何なるものなりとも、その程度は慥に無頓着にして無計劃なる社會の拙劣短見によりて生ずる社會的損害よりも遙に微少なりと論せらるゝところの觀察これなり。吾人

はこの觀察が時として、多數の大新聞に、及び他の公的報告等の有力なる材料中に更に屢々含蓄的に表明せらるゝを發見するなり、而して頻りに又多少の成功を以て米國諸政黨の評議會にその承認を強要しつゝあるなり。

第二の觀察は我等が傳習的に抱くところの他の觀念を代表するものにして「トラスト」は害毒なり、不必要の害毒なり、「トラスト」は經濟よりは寧ろ放恣、不謹慎なる力及び腐敗より發生するもの、而して可能的經濟所得は「トラスト」により收受せらるるものなりとするも、尙ほ如斯き所得は小産業が常に自發力、實業道德、個人的責任——略言すれば實業性格——を訓練するの學校として收め得るところの利益と比較して一瞬時も同格に評量すること能はずと論ずるものなり。夫故にこの觀察を主持するところの人々は社會の強大なる銕腕によりて現時の巨人的合同を粉碎し、而して其等の大合同の解體より生ずるところの、更に少規模なる商社間に我等の祖先が常に親みたりしが如き競争を強行せしめざるべからざることを提言す。今日この觀察は關係的に僅少なる公然の辯護者を有す、然れどもこの少數辯護者の中には最も智覺の聰明な

る人々及び最も公共心に富めるの人々を包括す。かくて立法上、及び行政上に於ける實際的勢力はかゝる觀察を承認し且つ主張する其等少數者が「トラスト」の害惡を豫知せしむるために世人を指導するよりも更に大なるものなり。

第三の觀察は「トラスト」は假令その經濟があまりに屢々欺瞞騙詐及び強力によりて助成せられたりと雖も、本來は經濟の生産物なり、品性の舊小實務學校は——恐らく近き將來に於て改良せらるべき——我が現代の状態より發達し而して其等の状態に尤もよく適合せる新らしき訓練法によりて補充せられざるべからず、大規模生産の經濟は増大せる利益によりて僅少の事業的超人の富を更に増長せんよりは低減せる物價によりて普通人の利益に向け得べく、又向けざるべからず、而して若し社會にしてこの任務を盡くすに充分に聰明なる、又充分に強力なるが如きものあらんか、我等の無知覺及び微弱は、我等を犠牲に、その聰明及び強力に道を譲らざるべからず、米國の鼓吹的絶叫は有效主義、又は民主主義にあらずして有效なる民主主義なりと論ずるものなり。夫故にこの觀察をとるところの人々は、能動的、永續的にして完全なる取締を

行ふの政策に賛意を表す、而してこの政策は二十世紀の初頭に於て一般人民により急速に承認せられ、而して亦實際に於ても勢力を得るに至れり。

第四の觀察、即ち社會主義者の觀察は「トラスト」發生の經濟及びその必至的なることを確説するに於て第三觀察と同様なり。社會主義者は更に所論を進め、而して個人的分野の一部に起りたるところは、定りたる運命として普遍的に起るべきものなりと主張せり。然れども社會主義者にとりて「トラスト」を取締るべしとの提言は恩寵を愛憐し又は愛憐を恩寵する底のことなり。所謂番人を番する者は誰ぞといふことなり。若し吾人が全く自を救ひ得るものとなし、又吾人が大規模生産の經濟を吾等自身の掌中に收め得るものと爲したらんには——これ社會主義者の社會化生産と稱するものなり——吾人は集合的所有及び經營によりて之を爲し得るのみ、而して他に道あらざるなり。社會主義運動に於ける最大人物たるカール・マルクスは六十年前に、集中に走るの傾向を見且つ之を豫知したり。彼の門下生及び崇拜者は世界がレヅェリールの計算に従ふて當然在らざるべからざるの處に海王星を發見せるの功勞に對し與へ

たると同様な榮譽をマルクスの先見又は豫言に對して與へんことを要求す。

以上各自につきその特色を擧げたる四個の觀察を更に簡單に次ぎの如く説明するを得べし、(一)「トラスト」は必至的、經濟的及び福利的のものなり、而して若し取締によりて干渉せらるゝことなくば、最も多く福利的に及び聰明的に運用せらるゝものなりといふは第一の主張なり。(二)「トラスト」は必至的、經濟的及び福利的のものにあらず、而して夫故に強制的に解散せしめざるべからず。といふは第二の主張なり。(三)「トラスト」は必至的及び經濟的のものなり、然れどもその濫用を抑制し、而して其等の經濟(「トラスト」より得べき利得)を一般公衆の利益に轉向するにあらざれば高度に危険なるものなりといふは第三の主張なり。(四)「トラスト」は必至的及び經濟的のものなり、而して又普遍的のものたるべし、従つて吾人は其等「トラスト」を取締り得ざるなり、夫故に吾人は其等「トラスト」を所有し、而して運用せざるべからず、若しこの事にして成就し得ざらんか民主主義は失敗に終らんと論ずるは第四の主張なり。

摘要

- 一、産業の廣且つ大なる發達は其結果として産業組織をして益、複雑ならしむ。
- 二、企業家は生産的要件の組織を指揮す、乍併彼等の職分は時として多數の個人間に分布せらる。
- 三、生産要件の一たる勞力組織の形態は單純なる協力、職業の分立(分業)及び勞力の分立(分勞)是なり。
- 四、生産要件の一たる天然物組織は産業の地方化に至らしむるものなり。
- 五、産業の有利なる組織を制限するものは人口の大サ及び性質、資本の多少、産業其物の性質、及び政府の性質等是なり。
- 六、或る産業にありては大規模生産によりて多くの利益を得るなり。之に對して小規模生産者は自ら之を維持し、或は利益をも享受し得るところの他の特殊なる状態にあるものなり。

七、「トラスト」の性質及び根源に關して四個の異なる觀察あり、夫故に「トラスト」對して組織的社會のとるべき態度に關しても亦同じく四個の態度あり。

復習問題

- 一、産業革命以前にありて如何に生産要件の協力は行はれたるか、如何なる程度にまでこの方法が今日文明國に於て行はれ得るか。
- 二、企業家たるもの、義務につきその二三を挙げよ。
- 三、事業經營の種々なる形態を挙げよ。關係的長所及び短所につきての觀念點より此等の形態を論ぜよ。
- 四、如何なる點に於て職業の分立(分業)は勞力の分立(分勞)と異なるか。
- 五、勞力の分立(分勞)の利益及び不利益を説明せよ、大規模生産の利益を説明せよ、又小規模生産にも利用せらるゝところの經濟又は節約を説明せよ。

研究問題

- 一、事業單位の平均大サの増加と商業、行政、財政及び其他同種類の學校及び大學の最近設置との間に如何なる關係の存在するか。
- 二、前に擧げたる進歩と労働組合の急速なる發達との間に如何なる關係の存在するか。
- 三、「トラスト」問題に關し諸政黨によりて採らるゝ其等政黨の態度は如何なるものなりや。
- 四、勞力の分立即ち分勞の益増加することは學校及大學教育の特殊化、即ち専門化を必要とし、又は必要とせざるの評論を起すものなるか。
- 五、勞力の分立(分勞)は生活の充實及び品性の擴張のために(a)直接に又は(b)間接に行はるゝものなるか。
- 六、市俄古屠獸場に於ける驚異すべき分勞につきて研究せよ。

七、最も廣く熟知せらるゝところの或種の産業に於ける分勞制度の工程を詳述せよ。

不_下以_二一己之利爲_レ利、而使_二天下受_二其利、不_下以_二一己之害爲_レ害、而使_二天下釋_二其害、此其人之勤勞、必_二于_二天下之人、

イリウキクア改訂經濟學原論終

大正七年四月拾四日印刷
大正七年四月拾七日發行



經濟學原論奧付

定價金九拾錢

著者

石澤久五郎

發行者

中村宗雄

發行者

竹內浩

發行者

拔井峯吉

發行者

榎山定吉

印刷者

東京市牛込區早稻田鶴卷町四百四十三番地

印刷者

東京市神田區三崎町三丁目一番地

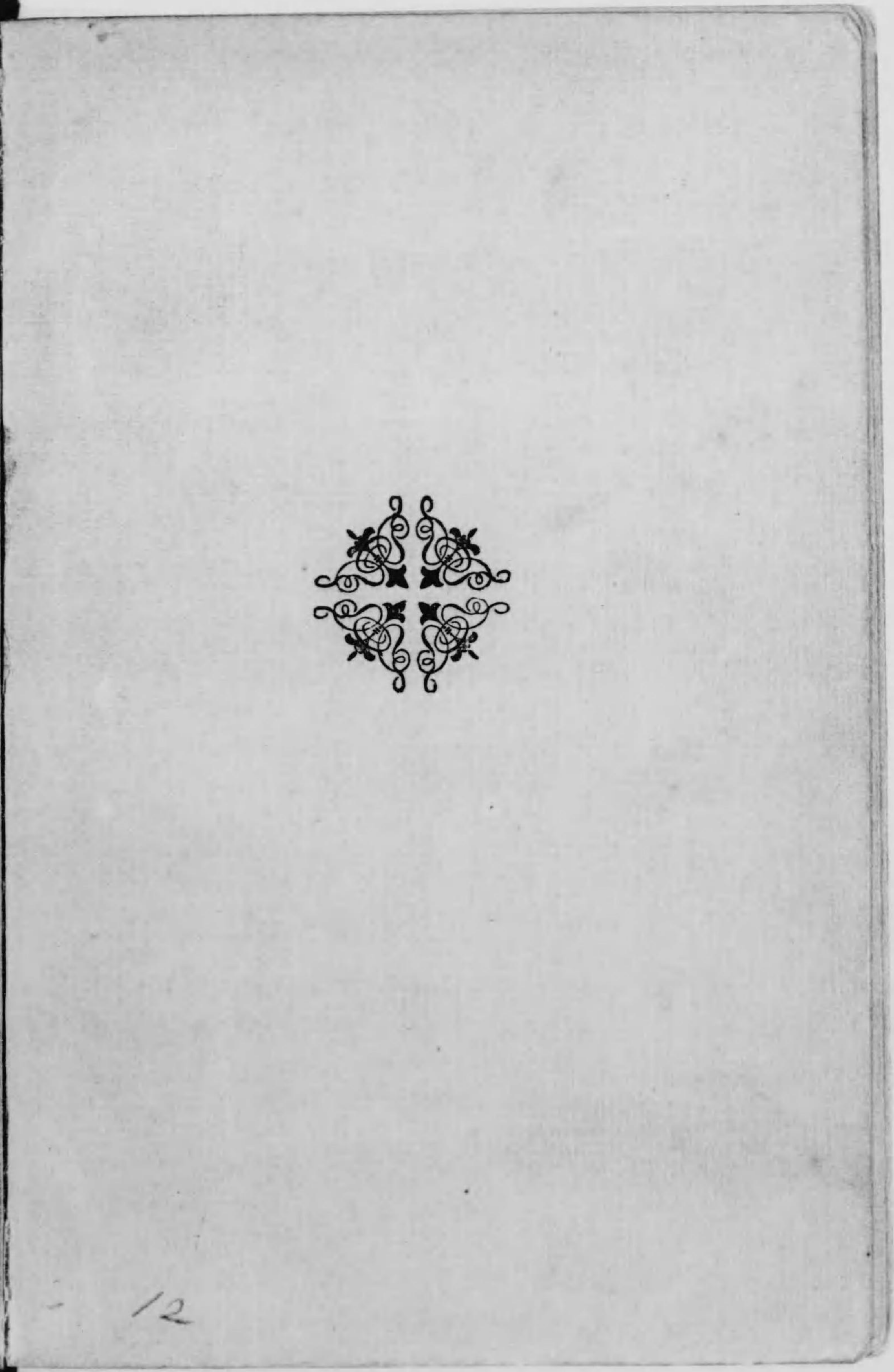
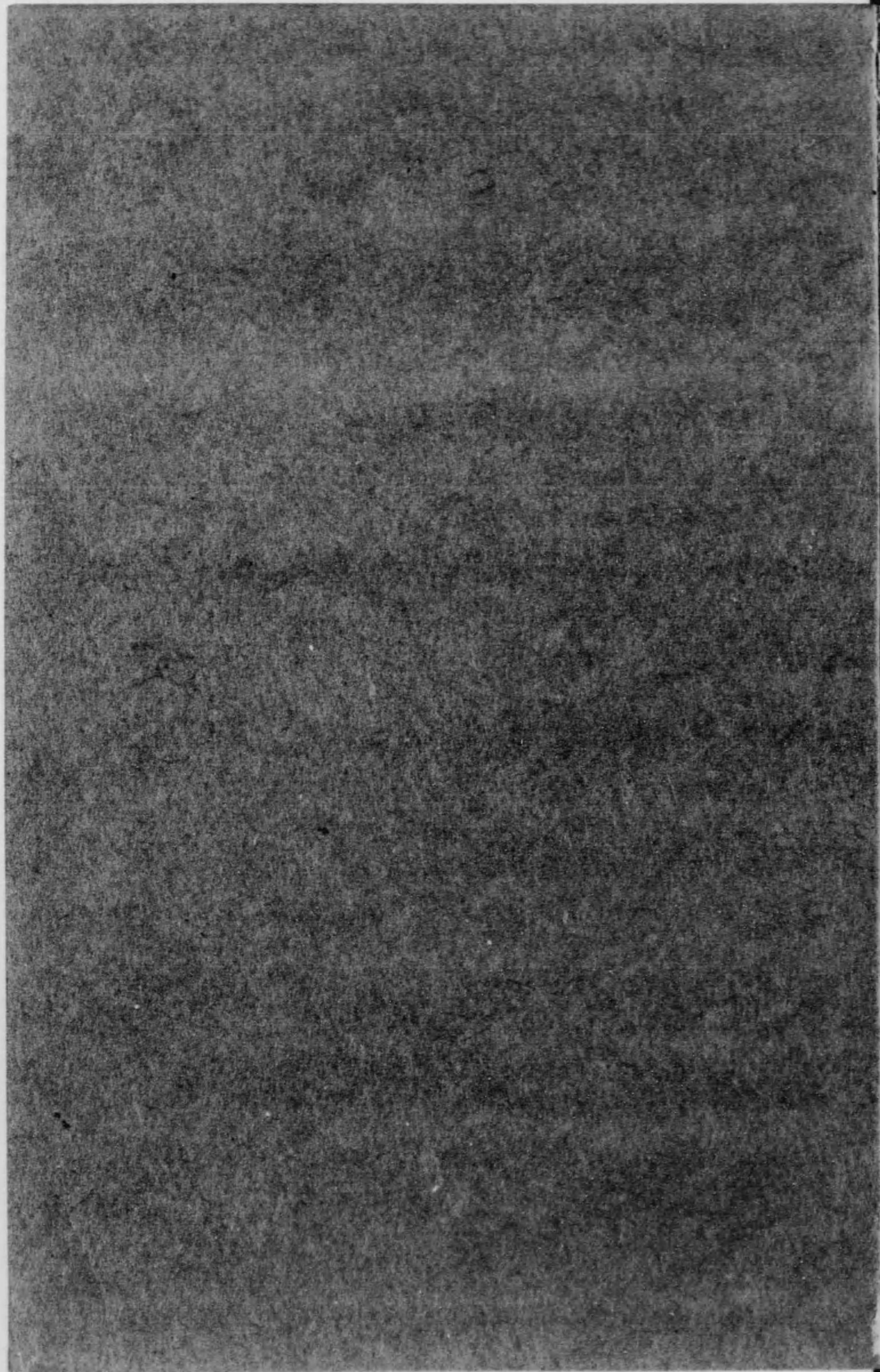
印刷者

東京市牛込區早稻田鶴卷町四百三十六番地

●發行所

(東京市牛込區
早稻田大通り)

東山堂書房
敬文堂書房
世文堂書房



12

362
62

終

